

vol.44 july. 2025



拓海

「海」を切り開く匠の業と心

CONTENTS

2025年 出会い 入学特集	
入学・進学のみなさんへ	3
在学生から新入生のみなさんへ	7
先輩留学生から新入生のみなさんへ	11
大学での学び方	13
卒業生より 業界で活躍しているOB・OGの方々	20
新任教員の紹介	22
学生会報告書	25
大学祭特集 海王祭の紹介	26
ニュース&トピックス	27
就職情報	30
学生相談室からのお知らせ	33
お知らせ	36

◆2025年 出会い

■入学特集

◎入学・進学のみなさんへ

「別無工夫」	井関 俊夫…… ③
批判的かつ論理的であれ	小暮 修三…… ④
入学された皆さんへ	久保 信明…… ⑤
大学生活を充実させよう	宮本 佳則…… ⑤
有意義な学生生活を	北出裕二郎…… ⑥

◎在学生から新入生のみなさんへ

つながりがくれた大学生活	吉松 秀記…… ⑦
海洋大の魅力	高橋ほの海…… ⑦
フィールドに出よう	滝山 直人…… ⑧
新入生の皆さんへ	古内 彬…… ⑧
海洋大生よ変人たれ	岡田 悠聖…… ⑨
これからのキャンパスライフ	本間 斗星…… ⑨
在学生から新入生へ	守田 悠人…… ⑩

◎先輩留学生から新入生のみなさんへ

先輩留学生から新入生へ	Denise Angelina Bermudez…… ⑪
-------------	------------------------------

■大学での学び方

◎学科の特色ある講義・実験の紹介

応用藻類学実習	堀之内祐介…… ⑬
特色ある授業の紹介	久田 孝…… ⑭

◎実習感想記

船舶実習感想記	藤川 由宇…… ⑮
海洋工学部 海難サバイバル実習	渡邊 理央…… ⑯

◎資格取得に向けて

荒波を越えて学ぶもの	清水 舞雛…… ⑰
------------	-----------

◎大学院で学べること

海洋管理政策学専攻	藤村 凜…… ⑱
応用環境システム学専攻	婁 威…… ⑱

◎卒業論文・修士論文への取り組み方

卒業論文への取り組み方	柏村 憲哉…… ⑲
修士論文への取り組み方	五十嵐新之介…… ⑲

■業界で活躍しているOB・OGの方々

水産教員の魅力	浅野 柊馬…… ⑳
未来をプロデュースする仕事	嶋野 崇文…… ㉑

■新任教員の紹介

海事システム工学部門	森 明智…… ㉒
海洋環境科学部門	田中 祐希…… ㉒

海洋環境科学部門	福原 和哉…… ㉓
海洋資源エネルギー学部	高橋 英紀…… ㉓
海の研究戦略マネジメント機構	佐野 和彦…… ㉓
船舶・海洋オペレーションセンター	桑村 祥一…… ㉔
船舶・海洋オペレーションセンター	岩切 敬晃…… ㉔

■学生会報告書

海洋工学部学生会	…… ㉕
----------	------

■大学祭特集

海王祭の紹介	守田 悠人…… ㉖
--------	-----------

■ニュース&トピックス

- ・令和6年度3月期学生表彰授与式、
学業優秀学生奨学金授与式、
学会等各賞表彰式を行いました…… ㉗
- ・令和6年度3月期学位記・修了証書授与式を
挙行しました…… ㉘
- ・令和7年度入学式を挙行しました…… ㉙

■就職情報

- ・令和6年度卒業者の就職先…… ㉚

■学生相談室からのお知らせ

- ・学生相談室について…… ㉛
- ・令和7年度学生支援教員…… ㉜
- ・本学の学生相談体制について…… ㉝

■お知らせ

- ・海外派遣プログラムに参加してみませんか？
…… ㉞
- ・国立科学博物館および
国立美術館の利用について…… ㉟
- ・東京海洋大学 公式X…… ㊱
- ・緊急時連絡システムについて…… ㊲
- ・ネットワーク障害防止のための注意事項…… ㊳
- ・東京海洋大学校友会のご案内…… ㊴
- ・掲示板…… ㊵

表紙写真（進路を見つめて）

乗船実習Ⅰにて、ブリッチでレーダーを扱う友人を写しました。レーダーを見ながら、船の進む道を見定めるその目は、同時に自らの未来を見据えているようでした。航海の始まりは、人生の新たな一歩でもある——そんな瞬間です。写真部

2025年 出会い

入学特集

入学・進学のみなさんへ

「別無工夫」

学 長
井 関 俊 夫

新しい年度が始まって3ヶ月ほどが経ちました。新入学・進学の皆さんも生活のリズムが定まり、落ち着いて生活できている頃ではないでしょうか。昨年度から始まった4学期制によって、本学では夏休みが長くなりました。実習や課外活動、インターンシップや留学、あるいは海や船で行うスポーツやレクリエーションなど、計画的かつ有意義に過ごして欲しいと思います。

先日、第68回5大学レガッタに出場する本学チームを応援するために、戸田オリンピックコースに行ってきました。水面を滑るように進むボートを眺めて、久しぶりに爽快な気分を味わいました。ボートの洗練された姿を見ていると、以前、「夢の船コンテスト」で衝撃を受けたことを思い出しました。このコンテストは皆さんが生まれる前(1991年)に始まったもので、当時、私は文部省内地研究員として東京大学船舶海洋工学科に在籍していました。「夢の船コンテスト」では「A部門：人力船スピードコンテスト部門」と「B部門：アイデアコンテスト部門」があり、研究室での関心は「A部門ではどんな船が優勝するか」という点に集中していました。予想としては、「理論的にシングルスカルが一番速いだろう」との意見が大勢を占めていました。ちなみにシングルスカルとは、一人乗りのボートで両手にオールを一本ずつ持って漕ぐ競技艇です。今回の5大学レガッタでの本学チームは二人乗りのダブルスカルでの出場でした。

研究室での予想に反して、実際に優勝した船はヤマハ発動機(株)が製作した「フェニックス」という名前の人力水中翼船でした。通常の船は浮力によって船体重量を支



えています。が、「フェニックス」は水中翼の揚力によって船体を水面から持ち上げ、摩擦抵抗や造波抵抗を大きく低減することに成功していました。竹芝桟橋から出ているジェット船と同様な機能を一人乗りの人力ボートで実現しており、スムーズな船体浮上と安定した翼走姿勢には大変驚かされました。

5大学レガッタから帰ってきて、「フェニックス」開発の詳細を知らないことに気がついて、製作記事¹⁾を読みました。人力の水中翼船は1984年頃に既にアメリカで試作・成功しており、「フェニックス」の製作者

は当初から水中翼船に焦点を絞り、船体、水中翼、ストラット、駆動系、プロペラ等の広範囲の検討事項について、諸条件を満たすように粛々と設計・製作を行ったことが分かりました。プレジャーボートの製作を専門とする企業だからできたというわけではなく、「フェニックス」の設計・製作に携わった技術者が自分の専門分野だけではなく、小型ボートに関連するあらゆる分野の知識と技術を身につけていて、それに加えて、最新の研究開発動向（人力水中翼船）についても把握していたことが、この革新的な「フェニックス」を生み出した要因であると思いました。

最近私が知った言葉に「別無工夫（べつむくふう）」という禅語があります。この言葉に出会ったのは、上野の東京藝術大学大学美術館で開催されていた「相国寺展」を見に行ったときでした。展示の最後の方に夢窓疎石（鎌倉時代～室町時代の禅僧）の墨蹟「別無工夫」がありました。「別に工夫は無い」という意味ですが、その解説文には「悟りに至る工夫（特別な修行法）は無い」、つまり「日常のすべての行いを修行と捉えよ」というような解釈が書かれていました。そのとき、私には「フェニックス」成功を裏付ける言葉のように思えました。つまり、「革新的な船を製作するための特別な方法は無い、常日頃から関連するあらゆる分野の知識・経験・技術を身につける努力をすることが重要である」というように理解しました。そして、最初の部分を「卓越した研究成果を生み出すための特別な方法は無い」と置き換えれば、そのまま私たち研究者の心構えにつながる言葉にも思えました。

私は、皆さんの中から卓越した研究者だけではなく、イノベティブな起業家や実務家、海洋社会に明るい未来をもたらすリーダーが現れることを願っています。したがって、「別無工夫」を学生の皆さんへの言葉に置き換えるならば、「社会に革新的な変化をもたらす人物になるための特別な方法は無い、大学で習うことだけにとどまらず、思い切って学外に飛び出して、いろいろなことを経験し、知識や技術を身につけることが重要である」という意味に解釈できると思います。

皆さんにプレッシャーをかけているわけではありません。気負うことなく、「別無工夫」の精神で夏休み、そして本学での学生生活を有意義に過ごして欲しいと思います。

1) 横山文隆「夢の船コンテスト(その1)スピード部門優勝艇「フェニックス」の紹介」日本造船学会誌TECHNO MARINE第752号(1992.2)

批判的かつ論理的であれ

海洋生命科学部長

小 暮 修 三



皆さん、ご入学、おめでとうございます。

これから皆さんが、自立的に学び、現実の諸課題に対処していく上で、身につけるべき重要な「力」が二つあります。それが「批判的思考力」と「論理的思考力」です。

批判的思考力とは、既存の知識や情報、主張を鵜呑みにせず、それらに対して疑問を持ち、検証し、自らの視点で評価する力のことです。フェイクニュースや誤情報があふれる現代社会においては、他者の意見を無批判に受け入れるのではなく、その背景や前提を問い直し、情報の信頼性を見極める姿勢が求められます。

また、論理的思考力とは、前提から結論までを一貫した構造で結びつけ、合理的かつ飛躍なく、物事を筋道立てて考える力のことです。複雑な情報を整理し関連づけて理解することで、断片的ではなく体系的な思考が可能になります。さらに、他者との関係性の中で思考を深め、多様な視点から物事を検討することで、より深い理解や独自の視座も育まれます。

すなわち、批判的思考によって情報を精査し、論理的思考によって新たな理解や知を構築する。このことは、皆さんが現実の諸課題に直面した時、その原因を分析し、最適な解決策を導き出すための土台となります。そして、「他にどんな見方ができるだろうか?」と問い続ける姿勢は、既存の枠組みにとらわれず、新しいアイデアやアプローチの創出にもつながります。

これら二つの思考力は、大学の授業に漫然と出席し、与えられた課題をこなすだけの受動的な姿勢では身につきません。授業だけではなく、サークル活動やイベントなど、さまざまな機会に能動的に関わり、教員や友人と議論を重ねながら、目の前の課題に対処していく中でこそ、培われていくものです。そして、これらの力は、卒業後にも現代社会を生き抜くために不可欠なものとなるのです。

皆さん、どうか「よく学び、よく遊び、よく考え、よく動く」ことを大切にし、批判的思考力と論理的思考力を身につけながら、充実した大学生活を送ってください。

入学された皆さんへ



海洋工学部長
久保 信 明

東京海洋大学海洋工学部へのご入学、誠におめでとうございます。様々な思いがある中、皆さんがこの学びの場を選ばれたことを、大変うれしく思います。またみなさんを送り出してくれたご家族に深く感謝します。海洋工学部は、海洋の中でも工学分野の可能性を切り拓き、持続可能な社会の実現に貢献する人材を育成することを目指しています。日本の貿易の99.6%（重量ベース）を海運が担っており、その海運を支える海技士、国内でもユニークな海事分野、海洋電子機械分野、流通情報分野の専門家になる道がひらかれています。

大学では主体的な学びが求められます。何も難しいことではなく、自身が興味のあることが何かじっくり考えてください。すでに目標の決まっている人はその目標に進み、決まっていない人も自身の興味や得意なことを見極めながら目標を見つけてください。なんでもよいので、頑張れるものを見つけた人は必ず伸びていきます。やりたいことがたくさんあり4年で足りないときは大学院もあります。大学院は勉強をするところですが、自由に考える時間もあります。社会人になってから自分の適性に気づく人もいるかもしれません。いずれにしても、自由に動ける学生時代の主体的な学びは重要です。我々教員や事務職員はみなさんのその思いを支えます。何か困ったことがあるときは、遠慮なく相談できる人に相談してください。

最後に、学びの成果の社会への還元についてです。本学は国立大学で国の税金で支えられている部分が大きいです。みなさんは、将来、社会の期待と信頼を背負い、学びを社会の発展に生かす使命があります。これは個人の成功だけでなく、地域や国際社会への貢献を含むものです。皆さんが身につける知識や技術が、将来の日本、さらには世界の発展に繋がることを忘れず、主体的に学び続けてください。

これから始まる大学生活が、充実したものであることを心から祈念しています。

大学生活を充実させよう



海洋資源環境学部長
宮 本 佳 則

ご入学おめでとうございます。東京海洋大学海洋資源環境学部での新たな学びのスタートに、期待と少しの不安を抱えている方もいるかと思います。大学生活は、知識や技術を学ぶだけでなく、自分自身の責任で行動し、成長していく貴重な時間です。ここでは「何を学ぶか」以上に「どう学ぶか」が問われます。高校までは与えられた課題に取り組む場面が多かったかもしれませんが、大学では自ら選び、自ら動く姿勢が求められます。授業の履修、時間の使い方、人間関係、日々の生活のすべてが自分の選択によって成り立っています。自由度が高い分、自己管理能力が重要です。行動一つひとつに責任が伴うことを意識し、社会人への第一歩として、意識を高く持って過ごしてってください。

海洋資源環境学部では、座学にとどまらず、海洋に関わる資源や環境問題について実践的に学べる環境が整っています。実習・実験を通して、自分の手で海と向き合い、データを扱い、現場の課題に触れる経験ができることは、本学部ならではの大きな魅力です。現場を知ること、教科書だけでは得られない「生きた知識」と出会うことができ、それが自らの関心や将来への道筋を見出すきっかけにもなるでしょう。また、学びの過程では、多くの仲間や教員との対話も欠かせません。全国から、そして海外から集まった多様な学生との交流は、自分の考えを深めると同時に、視野を大きく広げてくれます。対面でのやり取りを通じて築く信頼関係は、学びをさらに豊かにし、将来にわたる人脈となっていくはずで

大学で過ごす4年間は、将来の自分を形作る大切な時間です。自ら考え、学び、責任を持って行動することで、実りある学生生活を送ってください。皆さんがここ東京海洋大学で、自分だけの「学び」を見つけ、充実した日々を歩まれることを心より願っています。

有意義な学生生活を



大学院海洋科学技術研究科長

北出 裕二郎

ご入学、ご進学おめでとう御座います。大学院生の皆さんは、数ヶ月前に、卒業論文や修士論文を書き上げ、それぞれ新たなスタートに立ち、これからの大学院生活に期待で胸を膨らませていることと思います。

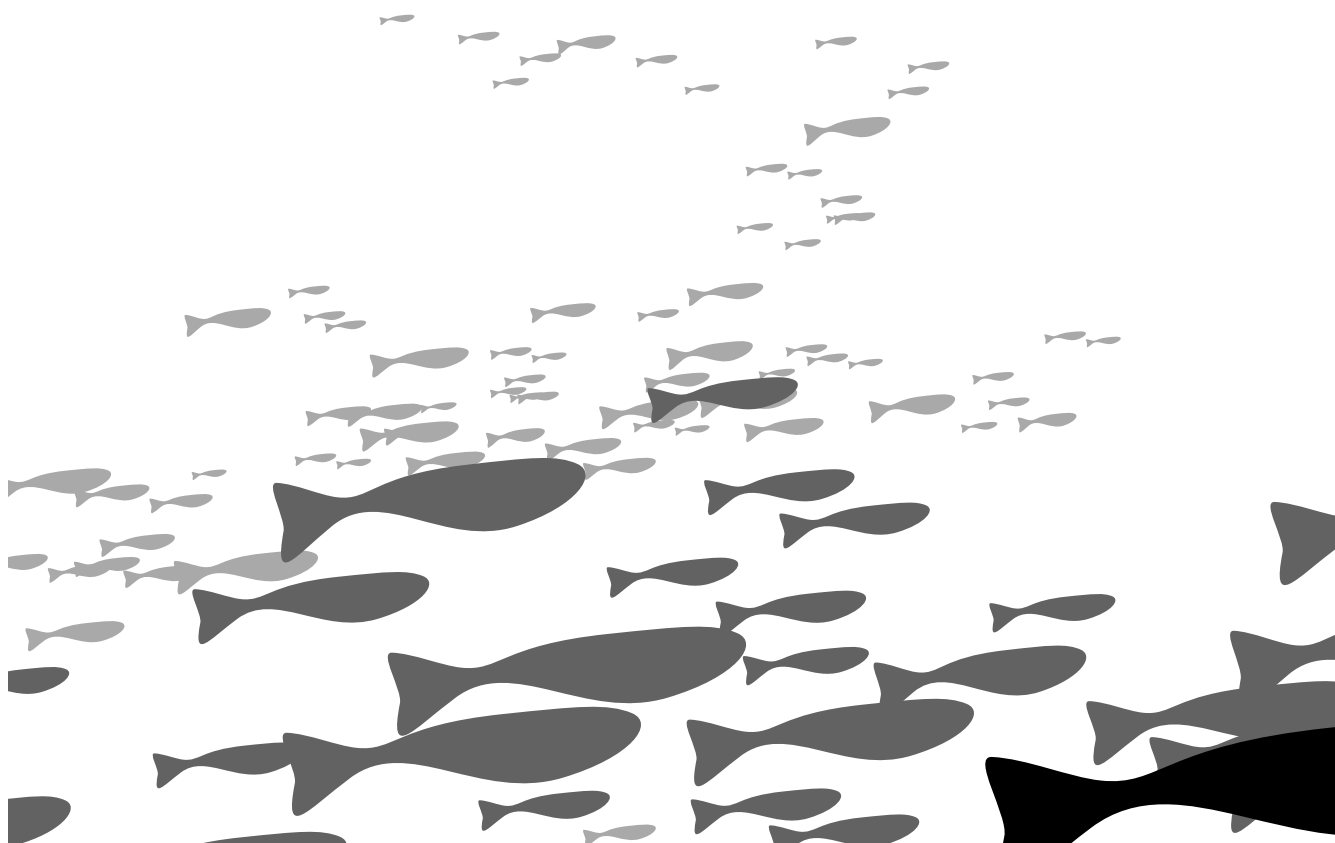
思えば、40年近く前のことになります。当時の私は先のことなど深く考えず学部時代を過ごしてしまいました。しかし、研究室に入り、漠然と流れているものと思っていた海水の動きが数式で表せ、数値的に予測できるということに衝撃を受け、防災と関連した海の物理現象の研究に興味を持ち大学院へと進学しました。時空を超えて、先を予測計算できる数値実験が面白かったのだと思います。

昔を振り返って、あの時もっと勉強しておけば良かったと言いがちですが、やはり私も思うことがあります。しかし、その頃に戻ることができたとして、本当にその勉強をするのでしょうか。おそらく勉強しないかもしれません。なぜなら、その時にはその時で、やりたいことをやっていたので、その時に勉強して時間を使っていた

ら、逆にあの時もっと遊んでいればよかったなどと、今になって後悔することになりそうです。その時々、勉強も含め、好きなことをやってきて、その結果が現在だと諦めるのが肝心なのだと悟りつつあります。学びたいと思ったら、いま、その時に学べば良いのです。最近では、オンデマンド教材が世の中に溢れており、いつでも学べる機会がある幸せな時代だと思います。

そのような時代においても、本学大学院へ進学した皆さんは、さらに幸せものです。海洋大学の特有のコンテンツは、一般的にはあまり無く、マニアックなものも多いかもしれませんが、そこが面白いのだと思います。人間、過去のことを思い出して後悔したり、懐かしく思い出したり、はたまた、将来に希望を抱きつつも、心配したり憂いだりするのですが、実際には過去のことは取り返しがつかず、今だけが真実で、将来は今の自分が作るものです。

昨今の学生さんは、将来の結果としての就職先ばかりを気にする傾向があるように思いますが、いま学びたいことを学び、遊びたければ遊び、そのようにして、社会に出てみると、なりたいたい自分に自然になっているのだらうと思います。もし、共感できる点があったら、とりあえず将来の就職などは心配せずに、熱中できる勉強や研究、その他にもやりたいことを一生懸命やるといった学生生活を過ごしてみたいはいかがでしょうか。



2025年 出会い

入学特集

在学生から

新入生のみなさんへ

つながりがくれた大学生活

海洋工学部 流通情報工学科3年

吉松 秀記

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます！

いまこの文章を読んでいるあなたは、期待と不安が入り混じった気持ちでいるかもしれません。私も、名古屋から上京して、大学1年の春は、慣れない東京の空気と新しい環境に圧倒され、毎晩のように地元の友達に連絡ばかりしていました。でも、今ではすっかりこの街に馴染み、海洋大学を選んで本当に良かったと思っています。

改めて振り返ってみると、私の大学生活には数多くの思い出が詰まっていました。机にかじりつき寝落ちしたテスト前の夜、門前仲町の居酒屋で朝まで語り合ったサッカー部の打ち上げ、英語に苦労しながらも実現したイギリスでのサッカー観戦などなど、思い出は数えきれません。でも、どの瞬間を思い出しても、必ずそこには「誰か」がいました。仲間が、先輩が、友人が、私の隣にい



写真は旅行先のイギリスでの写真です。私は、写真の右側です。

てくれました。だから私は、大学生活で一番大切なのは「つながり」だと思います。そして、その「つながり方」は、人の数だけあります。

自分が受け入れられるか不安で、最初の一步がなかなか踏み出せない人もいるでしょう。でも、安心してください。海洋大学には本当にいろいろな学生がいます。きっと、あなたのことを受け入れてくれる「仲間」が見つかるはずです。どうか、自分らしく、肩の力を抜いて歩んでください。みなさんの大学生活が、かけがえのないものになりますように！

海洋大の魅力

海洋資源環境学部 海洋環境科学科4年

高橋 ほの海

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい環境には少し慣れてきた頃でしょうか。ここでは海洋環境科学科4年の私が沢山ある海洋大の魅力のうち、2つを取り上げて紹介したいと思います。

1つ目は、海洋大生の人材の興味深さです。人によって大学に入学するまでの遍歴はそれぞれだと思いますが、海洋大には本当に様々な場所から多彩な経験を持った人たちが集まってきます。多くの人と関わると自らの世界が広がり、少し大げさかもしれませんが将来の選択肢も増えたりするのではないかと思います。

2つ目は、海洋大の授業の多様さです。東京海洋大学では、高校生の時と同じような授業から海洋大らしい特色のある授業まで、多種多様な授業を受けることになると思います。「大学は楽しみにしていたけれど、授業と

なるとどうしても眠気が…」という学生さんも多いかと思ひます。勿論私もその一人なわけなのですが、少しでも面白いと思ったり、興味が湧いたりしたことは大切にしておくと、その後役に立つことがあるかもしれません。学生の大半が4年生になると、研究室という自身の研究を行うための場所に所属するのですが、私はそこで授業をきっかけに興味を持ったことについて研究しています。

人生はどこにどのようなきっかけが転がっているかわかりません。海洋大には沢山の魅力的なことがあります。皆さん、ぜひ楽しいことを見逃さないように大学生活を送ってください。

フィールドに出よう

海洋科学技術研究科 海洋資源環境学専攻1年

滝山直人

海洋大に入学された新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。入学式から1か月ほどが経過し、新しい生活にも徐々に慣れてきたかと思ひます。さて、今回お伝えしたいことは、ぜひフィールドに出てくださいということです。私は研究で、岩礁潮間帯および潮下帯をハビタットとする甲殻類を扱っており、特に行動生態学を主として研究しています。フィールドに出るとその環境に適応した形態や生活史を持った生き物が数多生息しており、進化と種の多様性を感じることができます。また、生き物の行動は外敵からの逃避行動や繁殖行動など、種内でも異なる行動を示す場合があります。例えばヤドカリ類の繁殖行動では、オスがメスを持ち歩く交尾前ガード行動を行うのですが、周囲のライバルオスの数などで行動の趣を変えたりすることが知られています。岩礁域や礫浜、干潟、岸壁などで生き物がその環境に適応して織り成す形態や生活史、行動に注目して観察してみてください。



卒業研究発表を行う筆者

ださい。貴重な行動や珍しい種だけでなく、もしかしたら誰も見たことがない未記載種に出会えるかもしれませんし、その経験が今後の研究や学びの糧となり、皆さん自身の視野を広げることにつながるはずです。もちろん、フィールドは危険を伴いますから、安全第一を最優先です。ぜひ、積極的にフィールドに出て、生物とその環境のつながりを実感してください。

新入生の皆さんへ

品川キャンパス自治委員長
海洋資源環境学部 海洋環境科学科3年

古内 彬

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。品川キャンパス自治委員会委員長の古内です。本年度は、自治会費納入も滞りなく、自治委員会にも新規会員が加わり、とても喜ばしい限りです。新入生の皆さんには、感謝をお伝えしたいと思います。

さて、入学してしばらく経ち、皆さんも大学の生活には慣れましたでしょうか。近づくテストや待ち遠しい夏休みに思いを馳せている人も多いかと思ひます。

既に数か月の大学生活を過ごした今、時間があっという間に過ぎていていると感じる人も多いのではないのでしょうか。大学生活は長いようで短いものです。私の周囲にも、もう一年とって履修したい科目、行きたかった場所、経験したかった心残りを口にする声が少なくありません。新しい生活に戸惑い、躊躇しているばかりでは、時間は刻々と過ぎていき、気が付けば学年ばかり上がっているということにもなりかねません。学業、サークル、バイト、何でもいいので皆さんが打ち込めるものを見つけられるよう応援しています。

充実した学生生活は皆さんの今後の人生で大切な経験、素晴らしい思い出になると思ひます。皆さん方一人一人が、大学に仲の良い友人、落ち着ける居場所、頑張ろうと思える目標を持ち、有意義な学生生活を行えることを心からお祈りしています。何か私たちに手伝えることがあれば、些細なことでもご相談ください。

また、どうしても新しいことを始める勇気がない、何を始めようか気が迷うという人は是非、自治委員会と一緒に仕事をしましょう。初めは顔を出すだけでも構いません。連絡をお待ちしております。

海洋大生よ変人たれ

海洋工学部学生会長
海洋工学部 流通情報工学科4年

岡 田 悠 聖

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。数ある大学から海洋大を選んだ皆さん、一人ひとりが様々な思いを抱え毎日キャンパスに通っていると思います。

大学生活が高校までの学校生活と大きく変わってくるのは日々の過ごし方を自分自身で描き、実行していく点だと思います。授業以外にもサークル・部活動や友人との遊び、アルバイトなどできることの選択肢が一気に広がります。誰かと全く同じ生活を送るなんてことはほとんどないと思っていいでしょう。かく言う私自身も友達と北海道を横断したり、留学生に恋をしてフラれたり、気ままに大学生生活を謳歌してきました。

皆さんはこれから楽しかったこと、つらいこと、笑っちゃうような情けない話など多くの忘れられない経験をすると思います。その一つ一つが皆さんの人生の財産となることでしょう。だからこそ、私は自分の気持ちに従って自由に大学生活を過ごしてほしいのです。

これまでの話の中で、「自分のやりたいことなんて特にないや…」なんて思ってしまう人も少なくないでしょう。そんな人は、周りの人と話すことを大切にしてみてください。ひとつ海洋大のおもしろいところを挙げさせてもらおうとすれば、タイトルにある通り「変人」の巣窟だという点じゃないでしょうか。

この大学は一風変わった授業も多ければ、同じぐらい変わった人も多いです。今やりたいことが見つからない人も海洋大の「変人」たちと関わってくるうちに自分の価値観がひっくり返る、やりたいことが見つかるなんてことはよくあります。「朱に交われば赤くなる」と言う



写真は3年生の汐路丸乗船 筆者は一番右

ように、卒業するころにはきっとあなたも強烈な個性を持った「変人」になっていることは私が保証するので安心して今を楽しんでください。

これからのキャンパスライフ

第66回海鷹祭実行委員会 委員長
海洋生命科学部 海洋政策文化学科3年

本 間 斗 星

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。第66回海鷹祭実行委員会、委員長の本間と申します。

皆さんは海洋大へ入学されて、刺激のある日々をお過ごしでしょうか。あるいは新生活にも慣れてきて少々マンネリ化している状態でしょうか。

「毎日が新鮮で楽しい!」という方、是非引き続き色々なことを経験していただければと思います。高校までと比べ行動の幅が大きく広がりますが、自身の行動が周りの人間や社会に迷惑を与えてしまうことがないよう、また自分自身のためにも、分別と節度を持った上で思う存分楽しんでください。

反対に、多かれ少なかれマンネリを感じている方もいらっしゃるかと思います。マンネリ解消だけでなく、キャリア形成における経験値を高めるためにも、例えば海洋大品川生協2階のグローバルコモンに行かれたり、あるいは都内水族館コンプリートなどに挑戦されたりしてはいかがでしょうか（あくまで例えです!）。

そして自分から行動するのが苦手な方!

僕自信もそうですが、そんな方には海鷹祭実行委員をおすすめします!

様々な部署に別れますが、それぞれ将来に役立つ経験が得られますし、先輩方が優しく教えてくれるのでどなたでも成長を実感できます。中途加入大歓迎ですので



海鷹祭、早朝のステージ

ご興味があればお知り合いの実行委員にお声がけください。

この場を借りて簡単な勧誘をさせていただきましたが、何より皆さんが充実したキャンパスライフを送られることを心からお祈りしています。

在学生から新入生へ

第65回海王祭実行委員会委員長
海洋工学部 海事システム工学科3年

守田 悠人

皆さん、初めまして。海洋工学部海事システム工学科3年の守田悠人です。

この度は海洋大へのご入学おめでとうございます。ここ海洋大を志し入学してくてくれたことを在学生として嬉しく思います。

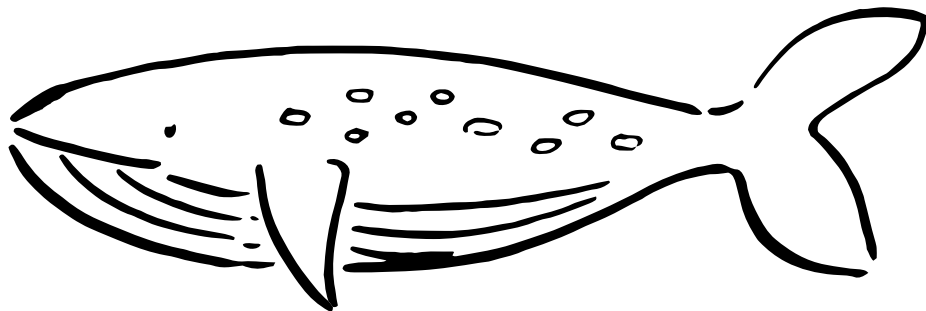
皆さんが海洋大に入ることを決めた理由は何でしょうか？船員になりたいから、魚類の研究者になりたい、海がどう動いているのか知りたいから。入学時の僕はこんなにも具体的な目的は持っていませんでした。ただ「大きい乗り物って良いな。」くらいの考えだったと思います。今だから言えますが月単位の乗船実習があることを知ったのが入学の1か月前だったくらいです。しかしながら、今では航海士になるという形になった目標があります。それは海洋大に入り乗船実習で学友らと過ごさなければ考えすらしなかった世界でしょう。

最大限大学を楽しむために、僕は皆さんに部活やサークルに入ることをお勧めします。今までやっていたことだけでなく新しいことを始めるチャンスです。僕が所属している海王祭実行委員会、木曜会をはじめカッター部、ラグビー部、軽音楽部、料理研、ロボ研、さらにはネットボール同好会と初耳のスポーツまで本当に海洋大の部活は多岐にわたっています。

コロンブスは航海の末に大陸を発見しました。これからの皆さんの大学生活には今までになかった様々なことが待っています。皆さんがこれからの4年間は実りのあるものにできることを願っています。



木曜会でのピンネス浦安沖セーリング（6月下旬）



2025年 出会い

入学特集

先輩留学生から 新入生のみなさんへ

先輩留学生から新入生へ

大学院海洋科学技術研究科 応用生命科学専攻2年

Denise Angelina Bermudez

I warmly welcome you to our community; It is a true honor for me to be part of Tokyo University of Marine Science and Technology (TUMSAT). Be proud of yourself, you've come a long way, and now you are officially a TUMSAT student. My hope is that this new chapter becomes everything you've dreamed of and more.

I've been given the wonderful opportunity to share a little about my journey and offer some advice as a senior international student. I hope my experience can serve as a source of encouragement and inspiration as you begin your own path.

A bit about me: I was born in Ecuador, raised in the United States, and later returned to Ecuador to earn my degree as a Doctor of Veterinary Medicine. I went on to complete a master's degree in Sustainable Aquaculture in Scotland, UK, and I am currently a doctoral student at the Genome Laboratory here in Tokyo, majoring in Applied Marine Biosciences. Life can take us to unexpected places, and it's up to us to make the most of the opportunities that come our way. While a love for learning keeps me moving forward, what I treasure most from every place

I've lived are the friendly faces, the meaningful relationships, and the beautiful memories that came with them.

Transitioning from veterinary medicine to molecular biology has been a challenging journey. Everything felt unfamiliar at first, and I won't lie, it's been difficult. But the beauty of it all is that I've had incredible supervisors and supportive lab mates who've helped and guided me every step of the way. I believe you'll find a great support system too.

As an international student, my first piece of advice is this: be curious and learn as much as you can, new fields can be very challenging, but I have no doubt you will succeed, just put the work in. Take the initiative to study Japanese, try new foods, explore unfamiliar places, and build connections with people from diverse backgrounds. You'll be surrounded by talented Sensei, kind guides, supportive senpai, every person you meet has something to teach you, so take it all in. Don't fear failure; embrace it as part of your growth. Trust that everything is unfolding for your good. All you can do is give it your best and believe that the best will follow.

Time may feel abundant, but it passes quickly and waits for no one. You won't get time back, so use it wisely. Remember: the past is history, the future is uncertain, but the present is a gift. Make each day count. Stay focused and make your

journey meaningful.

My second piece of advice is to be kind to yourself and to others. It's our shared emotions that connect us as human beings. We're all imperfect. We all have bad days. We all carry our own battles and unique strengths. Be patient both with yourself and with those around you. We're all navigating life for the first time, trying to find our place.

As international students, we also have the important task of embracing and respecting cultural differences. Japan has taught me the true value of personal responsibility, starting with simple actions like cleaning up after ourselves, managing our own time, and taking ownership of our learning. It also taught me the importance of balance: There is time for play and time for study, and both are important. In the Genome laboratory we play sports during breaks, and we work hard throughout the day.

Lastly, and most importantly, lead with love. Whether you're sailing the seas or conducting long, demanding experiments, do it wholeheartedly. Pour your passion into everything you do, and I promise you, it will make a difference. Love is the driving force that enables us to reach our highest potential. Discover what inspires you and let that be your guide.

Always be yourself. There will be times when you feel like you know nothing and others seem



Ishigaki, Island: Post sampling we had free time to spare, I decided to swim with dolphins.

far ahead, and that's okay. Just remember, your only competition is yourself. Strive to improve each day, not to compare, but to become a better version of who you were yesterday. And remember you are not alone on this journey. It's completely normal to feel uncertain at times but have faith in yourself and trust the process. Dream big and work even harder. Keep in mind what brought you here, whether it is to be the best scientist, save the whales, or feed humanity; take it to the next level, you have some of the latest technology available, Sensei that are open to your ideas, let's make this beautiful University proud, and build a brighter world for our next generations.

I see my lab as a sports team; we all bring different strengths, we have our captains and our coaches, we support one another, and we strive to succeed together. When one of us wins, we all win. Your lab will become your second family and remember you're exactly where you need to be, keep the love flowing and stay positive. Gambare!



Genome Laboratory soccer match during lunch break.

学科の特色ある



講義・実験の紹介

応用藻類学実習

海洋生物資源学部門 助教

堀之内 祐 介

海藻類は、日本を含む東アジア圏で広く漁獲・養殖され、食用や産業利用されているだけでなく、豊かな水産資源と多様な生物を育む沿岸生態系の基盤を形成しています。その増養殖や保全回復を行っていく上では、海藻類の生殖や生態を理解し、制御することが重要です。本実習では、海藻類の増殖、多様性とその保全について理解を深めるため、実際の養殖現場や、多様性モニタリングで利用されている手法を実際に行っていきます。

実習生は、まず、ワカメの種苗生産の手法を習得します。養殖現場から送られてきたワカメのメカブの部分を取り出し、薄く切って切片を顕微鏡で観察すると、数マイクロメートルの遊走子を沢山含む遊走子嚢が観察できます。ワカメは植物ですが、その遊走子は、遊走子嚢から放出されると、くるくると泳ぎまわる様子が観察できます。メカブの断片を筆できれいに掃除してから、遊走子をきれいな海水中で泳ぎださせ、それをシャーレにまいていきます。1か月後、それぞれの遊走子は小さな雌雄配偶体へと発生します。それら一つずつ分離していくことで、ワカメ配偶体の雄株と雌株を作ることができます。これは、ワカメの育種を行う上で不可欠な技術です。この実習を通して、異型世代交代を行うワカメの生活環を理解し、制御する重要性についても実感できるでしょう。

また、本年度からは、千葉県館山市坂田にある本学の館山ステーションを利用して、泊りがけの臨海実習も行います。班ごとに分かれて坂田の海藻を採集し、同定すると共に、多様性を記録するために必要な海藻の押し葉標本の作製の方法を習得します。その後、潮間帯での垂

直分布調査を行います。コドラートを設置し、海藻に着目しながら磯の固着性生物の被度と分布、潮間帯位置や環境との関係を調査します。最終日には、実習の結果をプレゼンテーションすることで、調査結果への理解を深めることができます。

本実習は、海藻養殖の手法を実際に学べるだけでなく、海洋大周辺の海藻の多様性を知ることができる、まさに東京海洋大学ならではの実習内容ではないかと思います。



実習で行っている潮間帯の海藻の垂直分布調査。潮間帯上部から沖までラインを引いて、方形枠内の被度を調べる。

特色ある授業の紹介

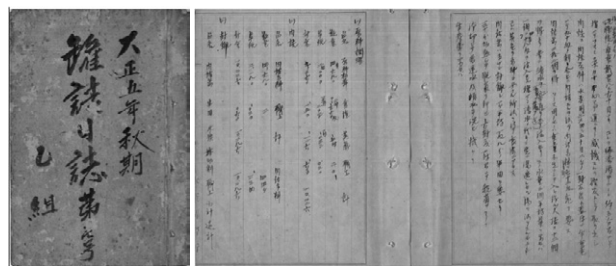
食品生産科学部門 教授

久田 孝

食品生産科学科は通常の授業科目だけでなく、実験や実習科目が充実しているという特長があります。これは、社会で通用する知識を実験や実習を通し、身をもって学んでほしいからです。例えば、1年生の夏に大泉ステーションで行うフレッシュマンセミナーでは、水質検査、ニジマスの解剖、そして燻製づくりが行われます。1年の後期の「食品生産学入門実験」では、普段の生活で食しているマヨネーズ、かまぼこ、レトルト食品、冷凍食品などを作り、その科学を学んでもらいます。2年生では食品科学を扱う上での基礎的な実験、具体的には、化学実験、物理学実験、微生物学実験を習得します。3年生になると、本格的な専門性のある実験（食品化学基礎実験、食品工学実験、食品化学実験、食品微生物学実験）で、将来の研究・開発、品質管理につながる科学と手技を習得します。

さらに、本学科で特色のある実習科目として、座学や実験科目で得た知識と技術を踏まえた「食品生産学実習」があります。この実習では吉田ステーションの食品加工棟で、マグロ油漬缶詰、サバ水煮缶詰、レトルトカレーなどを製造します。原材料の適切な取り扱い、諸作業の工程原理と効率および製造ラインへの人員配置など、リーダーとしての考え方についても修得します。本

実習は大正時代の本学前身の水産講習所で「製造実習」が行われていたところから、ゆうに100年を超える歴史があり、その頃の実習日誌がいまだに保管されています。現在の食品関連企業で活躍されている先輩たちも（私も含め）、本実習の重要性をよく語っています。コロナ渦の2年間は現地での実習ができませんでしたが、徐々にもとに戻り、今年度からはコロナ渦前の日程、項目で行われます。これから履修される学生の皆さんにも是非有意義な経験をしていただきたいと思います。



大正5（1916）年の缶詰日誌



食品生産学実習（吉田ステーション）



実習感想記



船舶実習感想記

海洋工学部 海洋電子機械工学科4年

藤川 由 宇

海洋電子機械工学科では、3年次に機関システム工学コースへ進級すると、学部で4年間で合計6ヵ月の船舶実習（船舶実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）に行く機会があります。東京海洋大学ならではの実習の一つですが、皆さんは1か月以上船に乗ると聞いて、どんなことを思い浮かべるでしょうか？私は最初、「教官がとても厳しそう」「とにかく大変そう」といったイメージがあり、実習前は不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、実際に乗船してみると、毎日がとても充実していました。航海当直や分団実習を通して、大学で学んだ知識を実際に体感することができました。中でも主機関（推進用の機関[エンジン]）の迫力は、座学で内燃機関の講義を受けた時以上に強く印象に残っています。教官の方々も決して理不尽に厳し

いではなく、安全のために必要な指導をされているのだと実感しました。服装等に関する注意や機器の操作を誤った際の鋭い指摘は、まさにその表れだと思います。

また、乗船中には授業時間外に自由時間もあり、学友たちとゲームをしたり、お菓子や夜食を囲んで雑談したりすることもできました。実習中は部屋割りの関係で、普段あまり話さなかった人と行動を共にする機会も多く、船内生活を通して新たな交友関係が生まれたことも、船舶実習の大きな魅力の一つです。

乗船実習では、他の大学では得ることができない貴重な経験を多く得ることができます。実習で得た体験を大学での学びに活かし、次の船舶実習も技術だけでなく人とのつながりや自分の成長も感じられる有意義なものにしたいです。



機関室内にて(主機関上段)

海洋工学部 海難サバイバル実習

海洋工学部 海事システム工学科4年

渡 邊 理 央



海洋工学部では、船を安全に運航するための船舶実習の他に、乗船時の海難を想定した海難サバイバル実習が行われます。海難サバイバル実習には、まず1年次夏に実施される水泳実習があります。

水泳実習は約60年間、7月中旬に千葉県富浦湾にて3泊4日の日程で実施していました。しかし、コロナ禍後は、6～7月の土日曜日の半日6日間、越中島の学内25mプールで実施しています。本実習は前半2回が、背浮きやライフジャケット着用での高所落水訓練・洋上漂流時の集団密集隊型訓練・救命いかだへの乗降訓練等の洋上生存プログラム、後半4回が泳力別4班体制による平泳ぎプログラムで、全学生が最終日に平泳ぎによる2列縦列での60分間泳を行います。

そして、4年次には大学港にて、船舶火災や沈没時を想定して、防寒・防水・浮力の確保された救命服（イマージョンスーツ）着用による練習船からの落水脱出・背浮きでの移動・救命はしご上り訓練を行います。



2列縦隊による平泳ぎ60分間泳



洋上漂流時の集団密集隊型

さらに、船舶火災時の消火訓練や煙の充満した船室をを想定した救助訓練等のプログラムを行い、自分自身と仲間の命を守る船舶火災生存プログラムを学びます。

なお、本実習はプールや港内の静水環境で行うため、実際の海難時に想定される風雨・波・潮流のある海上とは相違しますが、実習中に説明を受けた海難時における危機的状況の生々しい現実をイメージしながら、海難サバイバルの基礎的技能習得に取り組むことの意義は極めて大切だと考えます。

これらの実習を控えた後輩学生の皆さんには、船舶海難時のイマジネーション力を活かして真剣に本実習に取り組み、万が一の確率でも身の安全を担保できる臨機応変的な「生きる力」を身につけられることを切望します。



救命いかだへの乗り込み訓練



大学港での船舶脱出落水訓練



煙の充満した船室への救助訓練



資格取得に向けて



荒波を越えて学ぶもの

大学院海洋科学技術研究科 海洋資源環境学専攻1年

清水 舞 雛

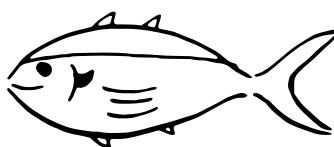
皆さんは海洋科学専攻科とは何か知っていますか？海洋科学専攻科とは、乗船履歴をつけながら、船乗りになるために必要なことを学ぶことができる1年間の課程になります。修了すると、3級海技士(航海)の身体・口述試験の受験が可能となり、合格すれば晴れて航海士の仲間入りです。

ちなみに船乗りとしての就職を希望する場合は1・2級海技士(航海)の筆記試験合格や第三級海上無線通信士の資格も必要ですので、海技士になりたいという方は早めの受験をおススメします。

私は緊急性がないということで今年の5月に3級海技士(航海)を取得しました。口述試験の勉強は主に実習中

に取り組むことになるのですが、インターネットを使えず、かつ限られた時間の中で効率的に学習することを余儀なくされます。勿論「吠える40度、狂う50度、絶叫する60度」という言い回しで有名な南極海も例外ではありません。私は乗り物酔いしやすく、そのような過酷な環境で学習するのは中々骨が折れました。しかし、実習中は実際に考え、実行し、理解することができるという環境に恵まれており、効率的な学習ができたと思います。

船乗り志望でもそうではなくても、実際の海を見聞きし、触れてきたという経験は何よりも得難い貴重なものです。その経験はいつか皆さんの人生を豊かなものにします。よければ皆さんも一生に一度しか味わえない、スリルと感動にあふれた冒険に出かけませんか。



大学院で学べること



大学院で学べること

海洋科学技術研究科 海洋管理政策学専攻2年

藤村 凜

大学院では、学部時代と比べて「受動的な学び」から「能動的な学び」へと大きく変化したと実感しています。学部では授業や実習を通じて幅広く知識を得ることが中心でしたが、大学院では自ら研究テーマを設定し、答えが一つではない問いに対して、文献を読み込み、仮説を立て、調査や分析を行い、結果を検証する。そうした過程を主体的に繰り返す姿勢が求められます。

授業ではプレゼンテーションやディスカッションが中心であり、論点を整理し、わかりやすく伝える力が鍛えられました。また、多様な分野や国籍の学生・先生方と議論を交わす機会も多く、自分とは異なる文化的背景や視点を持つ人々との対話を通じて、物事を広い視野で捉える重要性を実感しています。

私は現在、ブルーカーボンの取引に関心を持ち、地域の漁業者や企業と連携しながら、藻場保全活動の持続可能性について研究を進めています。社会科学の立場から、制度面だけでなく、現場での対話や実践を重視したアプローチを行っています。得られた成果は、学会発表やイベントでの登壇などを通じて社会に発信しており、実践と研究をつなぐ力も養われています。

大学院での学びは、専門性を深めるだけでなく、自ら課題を見つけて解決に導く力、そして社会との接点を意識した応用力を育む貴重な経験です。自分の興味を深く

掘り下げ、未来につなげる力を育む場として、非常に有意義だと感じています。



趣味の経験が、研究の原点になりました

大学院で学べること

海洋科学技術研究科 応用環境システム学専攻2年

婁 威

応用環境システム学専攻産業政策文化学分野に所属する博士後期課程2年の婁威（ロウイ）です。大学院は単に高度な知識を体系的に学ぶ場ではありません。それ以上に、「集中する力」「研究する力」「自分を高める力」を養う場所でもあります。ここでは、私が大学院で学んだこの3つの大切なことを紹介したいと思います。

1つ目は知識の選択と集中する力を養うことが重要です。大学院の授業は学部よりもより広くかつ深く専門的です。しかし、限られた時間とエネルギーの中で、すべてを追いかけることはできません。だからこそ、自分の研究テーマにとって本当に必要な知識を見極め、選び取る力が求められます。2つ目は研究力の養成です。大学院では自分自身の関心から研究テーマを設計し、それを形にしていきます。文献を読み、実験や調査を行い、考察を重ねながら、少しずつ答えを導き出していく、このプロセスを通じて「自分で問いを立て、自分で答えを見つけていく力」が身につきます。3つ目は自分自身の成長です。研究には自律的に取り組む姿勢が欠かせません。誰かに言われて動くのではなく、自分の意志で進んでいくことが求められます。また、学会発表などを通じて、自分の考えを他者に伝える経験も積み重ねます。そこで学んだのは、自分の主張をしっかりと伝える勇気、そして相手に理解してもらうための「共感力」の大切さです。

大学院では、先生方や先輩たちから多くのことを学べます。そして学べば学ぶほど、自分の足りないところに気づかされます。皆さんもぜひ、自分の関心を大切にしながら、大学院での学びにチャレンジしてみてください。



韓国釜慶国立大学で撮影しました

大学での学び方

卒業論文・修士論文への 取り組み方



卒業論文への取り組み方

海洋科学技術研究科 海洋システム工学専攻1年

柏村 憲哉

大学4年生にとって最も重要な活動の一つは卒業論文の作成かと思いますが、研究の開始時にはその進め方や到達点がわからず不安に感じる方も多いかと思います。卒業論文が3年生までの実験レポートと大きく異なる点は、研究の過程や実施スケジュールに自由度がある点や、得られた結果の分析や考察の方法を自分で工夫しながら考えないといけない点だと思います。そのため卒業研究を進めるうえで重要になってくるのは、研究室の先生と計画的に研究に関する話し合いを進めることだと思います。研究のスケジュールは、研究室によって他の実験との関係等、様々な調整が必要なことがあるので、早いうちから計画をしておきましょう。

私の卒業研究は、大型のエンジンを使用した実験を行いました。そのため、実験準備は時間がかかり、またエンジンの運転時には人手も必要であったため、これらの準備や計画を、早くから進める必要がありました。また、研究の過程で得られた結果を論文としてまとめるためには、様々な視点から結果の分析や考察の方法を考えてみるのが大切です。私の場合は同じテーマで研究をした同級生や、研究室の先生と実験結果の考察について意見交換の機会を多く持てたことで卒業論文の内容が充実したと思います。

4年生の早い時期から積極的に研究室に足を運び、研究室の先生や同級生と研究に関する話し合いを重ねることで、計画的に卒業論文の作成に取り組んで頂ければと思います。

修士論文への取り組み方

海洋科学技術研究科
応用環境システム学専攻1年

五十嵐 新之介



修士課程では、学部の卒業研究よりも一歩踏み込んだ、より主体的かつ継続

的な研究活動が求められます。修士論文はその集大成であり、単に成果をまとめるだけでなく、これまでの大学生活で培った「情報を整理し、論理的に構成する力」や「研究に対する姿勢」も試される場だと感じました。

論文執筆と聞くと、「書く作業」が最も大変だと思われるがちですが、私自身の経験から言えば、最も重要なのは研究題目の選定だと考えています。題目は研究の土台であり、その選び方次第で、取り組みやすさも、深められる内容の質も大きく変わります。

信頼性のある研究を行うには、先行研究を参照して自らの立場を明確にし、再現性のある条件で実験や調査を進める必要があります。これらを適切に選び取っていくには、やはり「題目」が明確であることが重要です。題目が定まっていれば、必要な文献やデータ、実験条件なども、方向性を持って探しやすくなります。

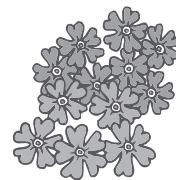
そのためには、まず知識のインプットから始めることが大切です。関連分野の講義やインターンシップ、論文読解はもちろん、最近ではWeb検索やChatGPTのようなツールも活用できます。どんな形であれ、まずは関心を持って調べてみることに。その積み重ねが、題目の選定にも、研究の進行にも役立ちます。

最後に、修士論文はゴールではなく、一つの通過点にすぎません。情報を取捨選択し、目的と手段を具体化しながら実行していく経験は、研究に限らず、社会のさまざまな場面で生きる力になるはずです。迷いながらも、地道に前進していくことが、きっと成果へとつながっていきます。

卒業生より



業界で活躍している OB・OGの方々



水産教員の魅力

2025年 海洋生命科学部 海洋政策文化学科卒業

2025年 京都府立海洋高等学校勤務

浅野 柊馬

皆さん、探究していますか？海洋政策文化学科の卒業生の浅野柊馬と申します。現在、ご縁をいただき京都府立海洋高校で講師として働いています。学生時代は水圏環境教育学研究室で、高校生を対象とした理科の探究学習において、指導者の発話や発問が生徒の思考にどのように影響するかをテーマに研究を行っていました。自分が高校生の頃は教育について全く興味がなかったのですが、海洋大在学中の教育実践にて興味を持ち、気づいたら「先生」と呼ばれる職業についていました。ここでは、水産教員の魅力や、学生時代にやってよかったこと、やっておけばよかったことを紹介します。

現在の勤務先の高校では、栽培環境コースを担当しており、海洋環境学や、水産流通、海洋生物学の授業を行っております。海洋高校では生徒が主体となって探究学習を行っており、特に栽培コースでは課題研究として、「ティラピアがおいしく食べられるのにはどのような餌が効果的なのか」や、「ザリガニの海水馴致と食用化」、「食害を起こすムラサキウニの採捕から飼育・養殖」など生徒が自発的に様々な探究学習を行っています。

水産教員の魅力として挙げられるのは、やはり「やりがい」です。今時やりがい搾取なんて言葉も聞きますが、そもそもやりがいのない仕事を延々やるということの方が辛いと同期の方からもよく聞きます。特にやりがいを感じるのはやはり授業で、「今日の授業はいい出来だぞ……！」と思って授業をすると、生徒たちの反応も良く、

生き生きと目を輝かせて授業を受けてくれますが、逆「今日のこの授業は詰めが甘いな」という授業では、生徒たちも辛そうに取り組んでいます。だからこそ、自分でもより良いと思える授業を作っていく必要があります。

関連して、教壇に立って改めて感じるのは、学んできた知識の蓄積が探究的な授業を行う上で非常に重要だということです。学生時代にやっておけばよかったこととして、もう少し多角的に研究に取り組んでおけばよかったという後悔があります。社会人になると研究に割ける時間は本当に限られるので、在学中にしっかりと実践的



生徒が採取したイトヨリダイを蘇生している風景

に学ぶ姿勢が必要だと実感しました。特に、高価な機器分析は学生の内しか行えません！学生の内は、自らのお金の持ち出しが少なく高価な実践を行うチャンスです。理論の裏打ちも大事ですが、理論ばかりに偏重せず、ぜひそのチャンスを活用してほしいと思います。

逆にやってよかった、今につながっているサークル活動として、学生時代の「IGOAN」という団体での活動も貴重な経験でした。特にワークショップでの学びは現在の教育実践にも役立っています。団体が今では大きくなっていると聞いて嬉しい反面、自分が関わっていた頃との変化に驚いています。

最後に、在校生の皆さんには、ぜひ失敗を恐れず、さまざまなことに積極的に挑戦してほしいです。生徒を見る側になって思うことは、いろいろなことに興味を持ち、行動に移せる力を持った生徒というのは、やはりどの分野でも活躍できているなと感じます。そして、ぜひ水圏教育に興味を持ち、水産教員という選択肢も考えてみてほしいと思います。

未来をプロデュースする仕事

1992年3月 商船学部 運送工学科 卒業

1994年3月 大学院商船学研究科 修士課程 運送工学専攻 修了

1994年4月 パシフィックコンサルタンツ株式会社 入社

嶋 野 崇 文

私は生まれた時から乗り物が好きで、普通の学部学科で学ぶことよりも、東京海洋大学の前身である東京商船大学商船学部運送工学科で陸海空の物流を学ぶことを希望し、1988年4月に入学しました。

学部時代の4年間は2年次までの海運経済論や海上保険論など、本学独特なカリキュラムが楽しくて、さらに3・4年次の乗船実習や専門科目も充実して学べたのですが、学部卒業時にはこのまま物流会社などに入社するのでは面白くないな、もう少し勉強した方がより一層違う業界に出られるのではないかと考え、大学院に進みました。

大学院での研究は国際海上コンテナの海陸一貫輸送の国際動向を調査し、日本の内陸輸送のネックを洗い出し、その解決策を提案するものでしたので、貨物鉄道会社への入社試験を受けましたが不採用。そこで指導して頂いていた渡邊豊先生の人脈で、建設コンサルタントの先駆けであるパシフィックコンサルタンツ株式会社を紹介頂

き、晴れて入社することができました。

大学院で海コン輸送を研究していたことや、商船大学出身という珍しい社員であったことから、入社早々から種々の問い合わせをもらい、充実した会社生活を送っていました。当時の建設省が海コン輸送セミトレーラー車等を考慮して、道路構造令を改正するというお手伝いをしたのが業務デビューです。その後は、最近着目されていますが、国土政策技術総合研究所と民間企業による物流トラックの自動運転の官民共同研究の事務局を担当したり、ITS（高度道路交通システム）の一つとしてETCの導入支援やスマートインターチェンジの制度作り、東京都の路上荷捌き対策のお手伝いを担当できました。これらは現在、実導入が図られたものもあり、自分の目で確認できるという充実感があります。

若い時代にはこのような業務に打ち込んでいましたが、中堅になってきてからは日本のインフラシステムの輸出促進調査・事業形成や地球温暖化対策の海外業務を担当することができ、マレーシア、タイ、モロッコ、アルゼンチン、ウルグアイといった国々で業務を行えたことも貴重な経験でした。

現在は、社会インフラの調査・設計を行うという建設コンサルタントとしての領域を超えるべく、実事業運営で得た知見を調査・設計に生かすという目標のために、コンセッション空港（いわゆる空港民営化）の運営参画、民間が資金調達を行って道の駅を整備し、行政に引き渡したうえで、その施設運営を行うことや、電力の地産地消を推進する主体として行政と共同で自治体新電力会社を創設し、運営を行うといった、国土の未来を創る仕事を実践しています。海洋大出身者とは異なる印象の仕事かもしれませんが、海洋大とはこういった可能性を秘めた教育プログラムを持つ教育機関だと思います。みなさん、果敢にご自身の未来もプロデュースしましょう。



大圏距離ではるか18,000km彼方の出張先 ウルグアイ・モンテビデオの港の風景

新任教員の紹介



海事システム工学部門 准教授

森 明 智

2025年4月1日付で、海事システム工学部門に着任しました、森 明智（もり あきとも）と申します。本学では英語科目を担当しますが、私の研究分野も外国語学習になります。大阪大学文学部卒業後、バーミンガム大学よりTEFL (Teaching English as a Foreign Language) / TESL (Teaching English as a Second Language)の修士号を取得し、昨年度、名古屋外国語大学大学院より博士(英語学・英語教育学分野)の学位を取得し、本学に着任いたしました。

海に関連する仕事や研究、いずれを対象としても、英語の習得は必須となりますが、私は、その習得のプロセスに焦点をあてて研究してきました。外国語を習得するプロセスは様々ですが、私が特に研究してきた内容は、教室内の対話(classroom interaction)です。

皆さんが外国語を学習する場合、自分で理解できる部分(辞書の使用などを含む)、があると同時に、自分では理解できない部分、とを感じたことがあると思います。この理解における差異の部分をinformation gap (情報ギャップ)と言いますが、このギャップを埋める一つの手段が、理解できない部分を言語化し、仲間や教員と教室対話(classroom interaction)し、解決に至ることです。

これまで、対話の内容をデータに変えつつ、実際の英語運用能力に与える影響を分析してきましたが、前任校(愛知工科大学)の時より、特に理工系の英語の学習に対話が与える影響を研究してきました。本校においても、専門的な英語が必須ですので、是非皆さんと、対話、しながら英語学習に貢献したく思います。よろしくお願いします。



海洋環境科学部門 准教授

田 中 祐 希

2025年3月に海洋環境科学部門の准教授に着任いたしました田中祐希と申します。専門は海洋物理学で、沿岸から外洋まで広範囲の海洋環境に大きな影響を及ぼす種々の波動・渦・乱流混合のような中・小規模現象が主な研究対象です。理論・数値シミュレーション・現場観測などの手法をうまく組み合わせながら、研究を進めています。

最近には特に、海底や陸岸の地形に捕捉された海洋内部の波（地形性捕捉波：空間スケール10～1000 km, 時間スケール1日以上）に興味を持っています。地形性捕捉波は、地球の自転・密度成層・海底地形という、海洋の流れを水槽内の流れとは大きく異なるものにする3つの要素すべてが複雑に関与する点で、力学的に非常に興味深い現象です。また、その砕波に伴う熱や物質の輸送を通じて深層大循環に影響を与えたり、黒潮などの強い流れを介して風成循環系の変動を引き起こすなど、気候システムの中でも重要な役割を担っています。

私はこれまで、地形性捕捉波の発生メカニズムや、黒潮の流路変動への影響などを明らかにしてきました。現在、潮汐や風による地形性捕捉波の発生率の全球分布を求め、深層大循環への影響を評価することを目指しています。

私たちにとって身近な存在である海洋には、まだ解明されていない未知の世界が広がっています。一見複雑な海洋現象の仕組みを、少数の基本法則から解き明かしていくところに、海洋物理学の面白さがあります。授業や研究活動を通じてその魅力を皆さんに伝え、一緒に研究を進めていけることを楽しみにしています。



海洋環境科学部門 テニユアトラック助教
福 原 和 哉

2025年4月1日付で海洋環境科学部門（水圏生態化学研究室）にテニユアトラック助教として着任しました、福原和哉（ふくはら かずや）です。

私の専門は「天然物化学」です。これまで一貫して、「ヒトにとって有用な活性物質を生物から探してくる」という研究に取り組んできました。学生の時には海洋無脊椎動物カイメンを対象として、がん細胞に毒性を示す物質を発見しました。また、前々職（岩手生物工学研究センター）および前職（秋田県立大学）では、植物（食品・生薬）からヒトの健康増進に役立つ活性物質を探し、はたまた、キノコの色素に関する研究にも取り組んできました。この度、再度海洋生物を対象とした研究に戻って行くことになりました。

これから研究に取り組むにあたり、着目している生物は「ナマコ」です。ナマコはヒトデやウニと同じ棘皮動物で、サポニンと呼ばれる活性物質を生産しています。ナマコサポニンは水虫治療薬として使われているほか、健康機能成分であるとも考えられています。今後は、ナマコサポニンそのもの（化学構造や生物活性）に関する研究はもちろんのこと、ナマコがどうやって（How）、何のために（Why）サポニンを生産しているのか、ということも解明していきたいと考えています。

学生の皆さんに対しては、自分の持つ実験技術・知識の指導をするだけでなく、ともに新しい技術を身に付ける「仲間」でありたいと考えております。一緒に新しい道を切り開いていきましょう！



海洋資源エネルギー学部門 教授
高 橋 英 紀

2025年4月1日付で海洋資源エネルギー学部門の教授に着任しました、高橋英紀（たかはし ひでのり）と申します。本学では、洋上風力発電設備をはじめ、海洋・沿岸構造物の設計や施工などについて、地盤工学・海岸工学の立場から研究を進めてまいります。

私は、2002年に港湾空港技術研究所という国土交通省所管の研究所に就職し、地盤工学を主軸として実務的な研究を行ってきました。23年間で、国土交通省で設計を行う部署で実務設計に携わったり、海外留学も経験しました。その中で、地盤工学と海岸工学の複合問題に興味を持ち、波～地盤～構造の相互作用についても研究

を実施し、最近は風も加えて洋上風力発電も研究のターゲットとしております。その縁もあって、本学に採用していただきました。

2002年に大学を卒業する際に、社会経験を積んだ後に大学に戻ることをぼんやり考えていました。人間形成も含めて恩師や友人から多くのことを学び、いつか少しでも社会に恩返しできればと思っていたためです。ただ、教員としては経験が浅く未熟であり、どのような授業や教育を行っていくかは、毎日悩んでいるところではあります。一方で、それも私にとっては未知なる探検であり、とても楽しくもあります。先輩方にアドバイスをいただきながら、早く一人前の教員になれるように邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



海の研究戦略マネジメント機構 ●
佐 野 和 彦

2025年3月1日付で海の研究戦略マネジメント機構に着任いたしました、佐野和彦と申します。

私は工学的なアプローチによるリスクマネジメントを研究し、社会に出ました。学生時代から、日本の産業を支える製造業に魅力を感じ、大規模なものづくりの現場で働きたいと考えていたため、化学メーカーに就職しました。石油化学プラントの技術スタッフ・管理者として、長年にわたり、安全、技術、運転、設備管理など製造の基礎を身に付け、やがて海外へのライセンス展開など応用分野にも携わりました。これらの経験を通じて、コア技術の発想や事業化のプロセス、異文化交流、知的財産の基礎などの知見を得ることができました。

その後は、会社の一拠点を俯瞰する立場で、設備安全、カーボンニュートラル、生物多様性、人材育成、DE&I、インフラ整備、産学官連携などの課題に取り組みました。特に近年は生物多様性への関心が高まり、自然共生サイトへの関わりや、ホテルの生態調査、メダカの飼育などを仕事として楽しんでいました。

ここ数年、自身の経験や得意分野を生かして、人の役に立つことがしたい、人の笑顔が見たいと強く思うようになりました。息子が大学院生となり、将来を模索する姿を見て、日本の若者が夢を持ちにくい現状にも心を動かされました。思い切ってアカデミアの世界に飛び込み、これまでの経験を新たなカタチで社会に還元したいと考え、本学でお世話になることを決意しました。

大学の研究成果が社会で広く活用されるよう支援することが、私の新たなミッションです。どうぞよろしくお願いいたします。



船舶・海洋オペレーションセンター 教授
汐路丸 機関長

桑 村 祥 一

今年2025年4月1日付で、練習船
汐路丸の機関長に着任しました桑村祥一
(くわむら しょういち)と申します。川崎汽船より参
りました。

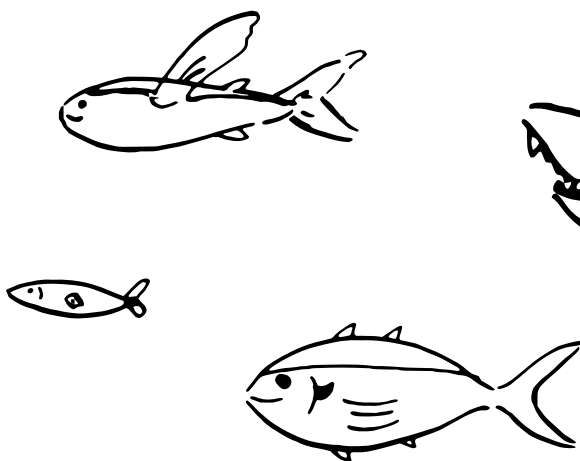
1991年に神戸商船大学を卒業、同年海上職員として
川崎汽船に入社し、約23年の海上勤務、約10年の陸上
勤務をしてきました。

海上勤務では、コンテナ船、自動車船、ばら積み船（バ
ルカー）、油槽船（タンカー）など、延べ28隻の外航船
で、多数の国、港を巡ってきました。ふだんはエンジン
ルーム内で整備作業がメインの縁の下の力持ち的存在で
すが、航海中は遥か水平線を見渡せたり、次々と現わる
流れ星や、イルカの大群、鯨の潮吹きなどに遭遇したり、
上陸した際には世界遺産を訪れたり現地のおいしいもの
を食べたり、と、船乗りの醍醐味を味わうこともできま
した。陸上勤務では、工務監督、検船監督、燃料油購買
業務（主に品質担当）などに従事してきました。

海上でも陸上でも、当然ながら楽しいことばかりでは
なく、様々なトラブルや不具合にも遭遇しましたが、そ
の都度試行錯誤しながらチームで乗り越えてきたこと
は、現在の職務においても私の基盤となっています。そ
れを軸に、本船でも安全運航に努める所存です。

学生の皆さん、海技士を志している人はもちろん、船
舶関係とは別の道に進もうと考えている人も、船以外の
ことであろうとどんなことでも、質問、相談、お気軽に
どうぞ！充実した船内実習となるよう尽力致します。

それでは汐路丸でお会いしましょう！



船舶・海洋オペレーションセンター 助教

岩 切 敬 晃

2025年04月01日付で船舶・海洋
オペレーションセンターの助教に着任
いたしました岩切敬晃(いわきり たかあ
き)と申します。

本学を卒業後、瀬戸内海に位置する造
船会社にて船殻、塗装、甲板艀装の各担当技師を務めて
参りました。その後、建造した船舶の所有・管理する船
主兼船舶管理会社からお声がけを頂き、船舶管理業務に
従事した後、縁あって広島商船高等専門学校にて教員を
させて頂いておりました。この度、母校である本学にお
いて練習船の船舶管理業務および練習船を利用した教育
研究の任を頂くことになり、大変光栄に思っております。

前職においては個人向けVR操船シミュレータの構築
や海底走行型水中耕運機の開発や自動車用助燃剤の船用
転用に向けた実証実験など幅広く研究をさせて頂いてお
りました。今後は、船舶管理を軸に現状における船舶職
員の負担軽減と効率的な管理体制の構築に向けた研究を
進めていく予定です。増え続ける船舶管理に対する要求
と船員負担に対しDX技術をもとに効率化と負担軽減策
の提案をさせて頂き、安全運航と働きやすい海上職場に
寄与したいと考えております。

船舶管理に関わる様々な方々とともに海事分野の発展
と人材育成のために最適な管理を可能にするシステムの
構築を目指し各種の研究を進めていく所存です。今後と
もご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



2024年度学生会報告書

●2024年度海洋工学部学生会報告書

〈収 入〉	(円)
繰越金	
令和6年度余剰金	924315
会費	3,440,000
在校生	0
新入生	85人×40,000
編入生	2人×20,000
利息	2,000
8月	270
2月	1,730
寄附及び各種事業の収益	0
寄附金	0
事業収益	0
課外活動団体からの令和5年度未就行戻入金	0
計	3,442,000



〈支 出〉	
サークル活動支援金 (計)	1,679,267
越中島写真部	31,917
海王祭実行委員会	0
海事普及会	21,955
男子端艇(カッター)部	91,772
女子端艇(カッター)部	26,400
軽音楽部	37,560
空手道部	65,952
硬式テニス部	82,000
茶道部	57,414
剣道部	39,643
山岳部	54,000
水泳部	74,600
ネットボール	0
男子バレーボール部	40,174
プラスバンド	0
ボートセーリング部	107,300
漕艇(ボート)部	300,000
木曜会	67,554
ヨット部	440,480
ラグビー部	110,523
ロボット研究会	30,023
令和5年度サークル支援金未入金補充分	0
令和6年度海王祭費用	2,199,185
学生会事務費 (計)	12,540
振込手数料	12,540
予算折衝雑費	0
計	3,890,992

〈来年度への繰越金〉

収入	3,442,000
支出	3,890,992
来年度繰越金	- 448,992

実行委員長から



海王祭の紹介

海王祭へようこそ

第65回海王祭実行委員会委員長
海洋工学部 海事システム工学科3年

守田 悠人

皆様、はじめまして。第65回海王祭実行委員会 委員長を務めさせていただいている海事システム工学科三年の守田 悠人です。海王祭実行委員会は現在越中島キャンパス海洋工学部学部生1年生～3年生の総勢84名で活動しています。

毎年6月に開催している海王祭は本年度で65回目となります。また、今年は本学が三菱商船学校として創立してから150年という記念すべき節目でもあります。そんな海王祭ですが、パンデミックにより2020年から2022年にかけて対面開催を断念せざるを得ませんでした。そこから2023年の第63回海王祭より再スタートしたことになります。私自身も、2023年に入学しその

第63回から海王祭に携わってきました。再起してから3年間、海王祭実行委員会が30名だった63回より海王祭に関わり作り上げてきた私から見ても、海王祭は大きく飛躍しました。

海王祭が成長したと皆様にも感じていただける例として、模擬店のテントが挙げられます。2023年度第63回では10団体、2024年度第64回では15団体でした。本年度は学生団体だけでも25団体、更に海事団体様方を含めると32団体という盛況となりました。

ここで紹介させていただいた例は一部でしかありません。他にも大学船舶試乗会やステージ企画といった多種多様なイベントを開催しています。ここまで海王祭が成長できたのはひとえに皆様のお陰です。学生、教職員の方々、OB、OGの先輩方、海事業界の方々、越中島をはじめとした周辺地域の方々、どれか1つでも欠けていたら今の海王祭は無いと言えます。これからも海王祭の成長を暖かく見守ってください。



ニュース & トピックス

令和6年度3月期学生表彰授与式、学業優秀学生 奨学金授与式、学会等各賞表彰式を行いました (令和7年3月18日)

○学生表彰（学部）

東京海洋大学学生表彰規則に基づき、入学以来よく勉学に努め、優秀な学業成績をおさめた学部学生8名及び早期卒業学生1名に対して、日頃の努力を称え、表彰状および記念品が授与されました。



井関学長（前列中央）と受賞した学生

○学生表彰（大学院）

東京海洋大学学生表彰規則に基づき、研究活動において特に顕著な研究成果をおさめた学生13名に対して、日頃の努力を称え、表彰状および記念品が授与されました。



井関学長（前列中央）と受賞した学生

○学生表彰（課外活動）

東京海洋大学学生表彰規則に基づき、課外活動において特に顕著な研究成果をおさめた学生1名に対して、日頃の努力を称え、表彰状および記念品が授与されました。



井関学長（前列中央）と受賞した学生

○学業優秀学生奨学金授与式

東京海洋大学学業優秀学生奨学金規則に基づき、成績優秀な博士前期課程2年次在籍者で博士後期課程に進学する10名に奨学金の目録が授与されました。



井関学長（前列中央）と受賞した学生

○学会等各賞表彰式

特に顕著な学業成績をおさめた学部学生29名、専攻科学生1名、大学院学生4名に対して、以下に記載した各学会等の表彰状および副賞が授与されました。

海洋会「海洋会賞」

楽水会「楽水会奨励賞」

日本機械学会「畠山賞」

日本船舶海洋工学会「奨学褒賞」

日本航海学会「奨学褒賞」

空気調和・衛生工学会「振興賞学生賞」

海技教育財団「会長賞」

日本マリンエンジニアリング学会「優秀学生奨励賞(山下勇賞)」

日本マリンエンジニアリング学会「優秀大学院生奨励賞(林俊一賞)」

日本物流学会「物流研究奨励賞」

電気学会東京支部「電気学術奨励賞」



井関学長（前列中央）と受賞した学生



井関学長（前列中央）と受賞した学生



井関学長（前列中央）と受賞した学生



令和6年度3月期学位記・修了証書授与式を挙行了しました

令和6年度 学位記・修了証書授与式を、3月25日（火）に越中島キャンパス越中島会館講堂にて挙行了しました。

今年度の卒業生・修了生は、学部卒業生410名、海洋科学専攻科修了生32名、博士前期課程修了生228名、及び博士後期課程修了生21名の計691名です。



式典の様子

来賓の方々にもご臨席いただき、卒業生・修了生の門出を祝う温かい雰囲気の中で開催され、それぞれ授与された学位記・修了証書を手に、思い出の詰まった母校から旅立ちました。

井関学長が式典中に読まれた式辞の全文は、大学ホームページ（以下のQRコード）からご覧いただけます。



大学ホームページのQRコード

令和7年度入学式を挙行了しました

令和7年度入学式を、4月7日（月）に越中島キャンパス越中島会館講堂にて挙行了しました。

今年度は、学部生476名、海洋科学専攻科生34名、乗船実習科生38名、博士前期課程225名、博士後期課程39名の計812名が、東京海洋大学生として新たな一歩を踏み出しました。

来賓の方々にもご臨席いただき、入学生の新たな一歩を後押しするような温かい雰囲気の中での開催となりました。

井関学長が式典中に読まれた式辞の全文は、大学ホームページ（以下のQRコード）からご覧いただけます。

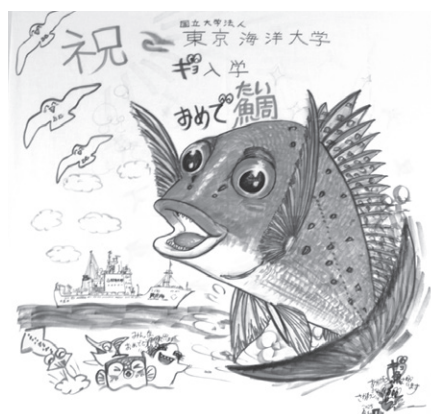
また、入学生へ向けたお祝いとして、本学客員教授のさかなクンからメッセージ動画をいただきました。学長式辞と同じホームページに掲載しておりますので、あわせてご覧ください。



大学ホームページのQRコード



式辞を読む井関学長



本学客員教授のさかなクン直筆のお祝いイラスト

就職情報

令和6年度卒業者の就職先

海洋生命科学部・海洋資源環境学部・海洋科学専攻科

業 種	企 業 名
鉱業・採石業・砂利採取業	ENEOS株式会社
建設業	五洋建設株式会社
製造業	株式会社紀文食品
	株式会社極洋
	株式会社合食
	宝醤油株式会社
	プリマ食品株式会社
	株式会社ロイネ
	長谷川香料株式会社
	松村石油株式会社
	三菱重工業株式会社
	株式会社マイスティア
	株式会社キーエンス
	株式会社小糸製作所
	福岡造船株式会社
	グローブライド株式会社
	ニチハマテックス株式会社
電気・ガス・熱供給・水道業	K&Oエナジーグループ【K&Oエナジーグループ(株)／関東天然瓦斯開発(株)大多喜ガス(株)】
	株式会社JERA
	メタウォーター株式会社
情報通信業	アイレット株式会社
	株式会社インテック
	株式会社Baby Jam
	株式会社リアルネットシステム
	さくらインターネット株式会社
	株式会社J R東日本情報システム
	商船三井システムズ株式会社
	セーフィー株式会社
	株式会社DSR
	株式会社長崎国際テレビ
	日本タタ・コンサルタンシー・サービス株式会社
	ネイチャーインサイト株式会社
	株式会社日立ソリューションズ
	旭海運株式会社
運輸業・郵便業	飯野海運株式会社
	出光タンカー株式会社
	NSユニテッド海運株式会社
	ENEOSオーシャン株式会社
	川崎汽船株式会社
	共栄タンカー株式会社

業 種	企 業 名
運輸業・郵便業	CMA CGM JAPAN株式会社
	株式会社商船三井
	株式会社商船三井さんふらわあ
	新日本海フェリー株式会社
	第一中央汽船株式会社
	日本海洋事業株式会社
	日本郵船株式会社
	福神汽船株式会社
	株式会社丸和運輸機関
	郵船クルーズ株式会社
	リベラグループ株式会社
卸売業・小売業	株式会社ネクステージ
	株式会社エフリード
	株式会社貴瞬
	東郷株式会社
	株式会社ノースイ
金融業、保険業	株式会社日本政策金融公庫
	全国共済水産業協同組合連合会
学術研究、専門・技術サービス業	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
	国際航業株式会社
宿泊業、飲食サービス業	株式会社グランピスタ ホテル&リゾート
	日本マクドナルド株式会社
	株式会社BMLフード・サイエンス
教育、学習支援業	株式会社First Drop
	さいたま市公立高等学校
サービス業	宮城県立 気仙沼向洋高等学校
	株式会社クリア
	株式会社グローバルオーシャンディベロップメント
	セントラル警備保障株式会社
公務	公益財団法人東京動物園協会
	海上保安庁
	環境省
	気象庁
	警察庁
	水産庁
	岐阜県
	警視庁
	兵庫県明石市役所
	横浜市

海洋工学部・乗船実習科

業 種	企 業 名
建設業	KDDIケーブルシップ株式会社
	株式会社テクノプロ・コンストラクション
製造業	麒麟ホールディングス株式会社
	サッポロビール株式会社
	株式会社明治

業 種	企 業 名
製造業	花王株式会社
	株式会社資生堂
	住友電気工業株式会社
	住友重機械工業株式会社
	ダイキン工業株式会社
	株式会社ダイフク
	株式会社TMEIC

業 種	企 業 名
製造業	東京エレクトロン株式会社
	東芝エネルギーシステムズ株式会社
	Japan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社
	古野電気株式会社
	いすゞ自動車株式会社
	今治造船株式会社
	株式会社日産オートモーティブテクノロジー
	日立Astemo株式会社
	ヤマハ発動機株式会社
情報通信業	S Bテクノロジー株式会社
	株式会社NYK Business Systems
	株式会社昭和システムエンジニアリング
	株式会社ハイシンクジャパン
	三菱総研DCS株式会社
	株式会社リクルート
運輸業・郵便業	旭タンカー株式会社
	飯野海運株式会社
	出光タンカー株式会社
	株式会社宇徳
	NYKバルク・プロジェクト株式会社
	NYK LNG シップマネージメント株式会社
	ENEOSオーシャン株式会社
	MOL マリン&エンジニアリング株式会社
	海洋技術開発株式会社
	川崎汽船株式会社
	共栄マリン株式会社
	J F E 物流株式会社
	株式会社商船三井

業 種	企 業 名
運輸業・郵便業	商船三井クルーズ株式会社
	商船三井ドライバルク株式会社
	第一中央汽船株式会社
	DHL サプライチェーン株式会社
	西日本鉄道株式会社 国際物流事業本部
	日本郵船株式会社
	三井倉庫ホールディングス株式会社
	三菱ケミカル物流株式会社
	三菱倉庫株式会社
	明治海運株式会社
卸売業・小売業	安田倉庫株式会社
	郵船ロジスティクス株式会社
	ロジスティード株式会社
卸売業・小売業	商船三井テクノトレード株式会社
	トラスコ中山株式会社
金融業・保険業	株式会社ミノル
	三井住友カード株式会社
学術研究、専門・技術サービス業	大日本ダイヤコンサルタント株式会社
	株式会社Regrit Partners
サービス業	株式会社グローバルオーシャンディベロップメント
	一般社団法人日本海事検定協会
	一般財団法人日本海事協会
	株式会社マイナビ
公務	海上保安庁
	国土交通省 航空局・自動車局・海事局
	特許庁
	東京都
その他公的機関等	独立行政法人海技教育機構

大学院海洋科学技術研究科

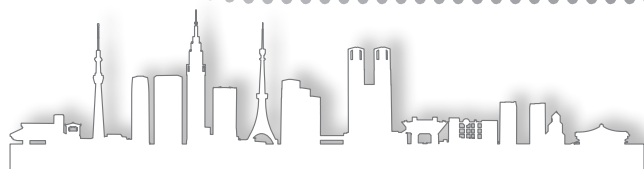
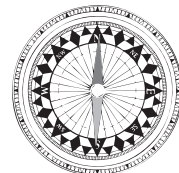
業 種	企 業 名
鉱業・採石業・砂利採取業	出光興産株式会社
	株式会社INPEX
	ENEOS株式会社
	J X 石油開発株式会社
建設業	住友林業株式会社
	大成建設株式会社
製造業	アサヒグループジャパン株式会社
	アサヒグループ食品株式会社
	味の素株式会社
	味の素AGF株式会社
	オリエンタル酵母工業株式会社
	株式会社キミカ
	キュービー株式会社 総合職
	株式会社極洋
	キリンホールディングス株式会社
	クロレア工業株式会社
	株式会社湖池屋
	三栄源エフ・エフ・アイ株式会社
	三和酒類株式会社
	昭和産業株式会社
	東洋水産株式会社
	株式会社ニチレイフーズ
	日清オイリオグループ株式会社
	日清食品ホールディングス株式会社
	株式会社日清製粉グループ本社
	株式会社ニッスイ
	株式会社ニッポン
	日本ビュアフード株式会社
	フィード・ワン株式会社
	ブリマム株式会社
	ホッカンホールディングス株式会社
	マリンフーズ株式会社 (双日グループ)

業 種	企 業 名
製造業	丸大食品株式会社
	マルハニチロ株式会社
	株式会社Mizkan
	株式会社ヤクルト本社
	ヤマサ醤油株式会社
	理研ビタミン株式会社
	KMバイオロジクス株式会社
	大鵬薬品工業株式会社
	東洋紡株式会社
	リファインホールディングス株式会社
	東洋製罐グループホールディングス株式会社
	三井金属鉱業株式会社
	味の素エンジニアリング株式会社
	Wuchuan Environmental Technology
	株式会社エー・アンド・デイ
	株式会社荏原製作所
	株式会社キッツ
	クボタ環境エンジニアリング株式会社
	ジーエルサイエンス株式会社
	J F E エンジニアリング株式会社
	水 i n g 株式会社
	住友重機械工業株式会社
	ダイキン工業株式会社
	千代田化工建設株式会社
	株式会社ディスコ
	日揮ホールディングス株式会社
	富士電機株式会社
	三井海洋開発株式会社
	三菱重工業株式会社
	ヤンマーホールディングス株式会社
	横河ソリューションサービス株式会社
	T D K 株式会社
	日本無線株式会社
	株式会社キーエンス

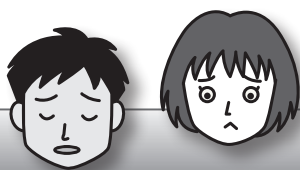
業 種	企 業 名
製造業	株式会社日立製作所
	三菱電機株式会社
	いすゞ自動車株式会社
	ジャパンマリンユナイテッド株式会社
	株式会社デンソー
	ボッシュ株式会社
	本田技研工業株式会社
	株式会社がまかつ
	株式会社タカラトミー
	レンゴー株式会社
電気・ガス・ 熱供給・水道業	高圧ガス保安協会
	J-POWER（電源開発株式会社）
	株式会社JERA
	東京ガスネットワーク株式会社
	北陸電力株式会社
	メタウォーター株式会社
	株式会社ユーラスエナジーホールディングス
情報通信業	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
	AJS株式会社（旧 旭化成情報システム株式会社）
	HYソフト株式会社
	株式会社イー・ティー・エックス
	株式会社エクサ
	SCSK株式会社
	エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社
	株式会社NTTデータMSE
	KDDI株式会社
	株式会社ケイラインビジネスシステムズ
	コグニザントジャパン株式会社
	株式会社セック
	株式会社DTS
	TDS E株式会社
	東進ソリューションズ株式会社
	豊田通商システムズ株式会社
	日興システムソリューションズ株式会社
	日本電気株式会社（NEC）
	農中情報システム株式会社
	東日本電信電話株式会社
	フコク情報システム株式会社
	富士通株式会社
	富士通Japan株式会社
	株式会社pluszero
運輸業・郵便業	旭タンカー株式会社
	乾汽船株式会社
	MOLマリン&エンジニアリング株式会社
	川崎汽船株式会社
	菅原汽船株式会社
	日本海洋事業株式会社
	株式会社ホームロジスティクス
	三井倉庫ホールディングス株式会社
卸売業・小売業	青葉化成株式会社
	エプソン販売株式会社
	株式会社折兼
	シャープマーケティングジャパン株式会社
	株式会社辻野
	長瀬産業株式会社
	ニチモウ株式会社
	株式会社日立ハイテク
	フナコシ株式会社
	株式会社ベニレイ
金融業・保険業	株式会社日本政策金融公庫
	三井住友カード株式会社
不動産取引・賃貸・管理業	中茵控股集团有限公司
学術研究、 専門・技術サービス業	海洋環境モニタリングセンター（中国）
	バングラデシュ科学産業研究評議会（BCSIR）
	アビームコンサルティング株式会社

業 種	企 業 名
学術研究、 専門・技術サービス業	株式会社アルファ水工コンサルタンツ
	いであ株式会社
	株式会社エコー
	株式会社オオスミ
	株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル
	株式会社建設技術研究所
	三洋テクノマリン株式会社
	シンプレクス・ホールディングス株式会社
	一般社団法人水産土木建設技術センター
	株式会社チェンジ
	株式会社西日本科学技術研究所
	日本工営株式会社
	株式会社Hakuhodo DY ONE
	八千代エンジニアリング株式会社
	株式会社ユーベック
宿泊業、 飲食サービス業	株式会社BUB
	株式会社BMLフード・サイエンス
教育・学習支援業	アンティケ大学
	国立大学法人 北海道大学
	さいたま市公立高等学校
	ターバン工科大学
	ダマンフル大学
教育・学習支援業	中国農業大学
	国立大学法人東京海洋大学
	学校法人根津育英会武蔵学園
	独立行政法人国立高等専門学校機構 広島商船高等専門学校
	福井工業大学
	株式会社江ノ島マリンコーポレーション
	株式会社横浜八景島
医療・福祉 複合サービス事業	株式会社アズパートナーズ
	日本郵政株式会社
サービス業	株式会社アルプス技研
	公益財団法人海外漁業協力財団
	公益社団法人 日本食品衛生学会
	サクラインターナショナル株式会社
	首都高速道路株式会社
	SOLIZE株式会社
	一般財団法人日本海事協会
	気象庁
公務	国土交通省
	水産庁
	Ministry of Fisheries, Tonga
	防衛省 海上自衛隊
	防衛装備庁
	愛知県庁
	石川県庁
	茨城県
	沖縄県
	千葉県
	中央区役所
	東京都
	兵庫県庁
	福島県
その他公的機関等	独立行政法人海技教育機構
	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所
	国立研究開発法人科学技術振興機構
	ケニア海洋水産研究所
	独立行政法人国立印刷局
	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
	国立研究開発法人水産研究・教育機構
	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	独立行政法人日本学術振興会

学生相談室からの



お知らせ



学生相談室について

学生相談（カウンセリング）

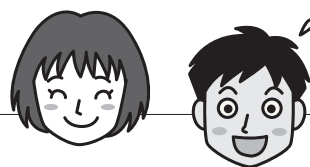
学生生活、進路、対人関係で悩みがある場合は、専門カウンセラーが相談に応じます。

話をすることで、あるいは自分の思いを表現することで、思いのほか気持ちが楽になったり、次

への展開へのきっかけが見つかったりもするものです。
相談内容についての秘密は厳守されています。

なお、曜日が変更となる場合がありますので、HPをご確認ください。

品川キャンパス



場 所	大学会館 1 階学生相談室
日 時	詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。
相 談 員	藤田先生（女性：臨床心理カウンセラー・火曜日担当） 高橋先生（女性：臨床心理カウンセラー・木曜日担当）
予約方法	メールでご予約ください。 メール s-counseling@o.kaiyodai.ac.jp

越中島キャンパス

場 所	越中島会館 1 階 学生相談室
日 時	水・金曜日 12:10 ~ 16:40 詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。
相 談 員	善積先生（女性：臨床心理カウンセラー・水曜日担当） 河崎先生（女性：臨床心理カウンセラー・金曜日担当）
予約方法	保健管理センターでご予約ください。 1. 保健管理センター窓口にて 2. 電 話 03-5245-7357（保健管理センター事務室） 3. メール e-hoken@o.kaiyodai.ac.jp

令和7年度 学生支援教員

1年生

学部	学科	教員氏名		
海洋生命科学部	海洋生物資源学科	壁谷尚樹	川戸智	
	食品生産科学科	後藤直宏	中村綾花	
	海洋政策文化学科	藤本浩一	若松美保子	
海洋工学部	海事システム工学科	岡崎忠胤	西崎ちひろ	笹原裕太郎
	海洋電子機械工学科	市川桂	吉岡哲也	大貫等
	流通情報工学科	渡部大輔	田上悠太	
海洋資源環境学部	海洋環境科学科	宮崎奈穂	田中祐希	
	海洋資源エネルギー学科	戸田勝善	尾張聡子	

2年生

学部	学科	教員氏名		
海洋生命科学部	海洋生物資源学科	遠藤雅人	團重樹	
	食品生産科学科	萩原知明	レドマーク アン ソニー ポリヴァ	
	海洋政策文化学科	高橋周	畠山大	
海洋工学部	海事システム工学科	近藤逸人	田丸人意	内野明子
	海洋電子機械工学科	田中健太郎	関口美保	小嶋満夫
	流通情報工学科	黒川久幸	奥村保規	
海洋資源環境学部	海洋環境科学科	岡井公彦	中村玄	
	海洋資源エネルギー学科	中東和夫	呉連慧	

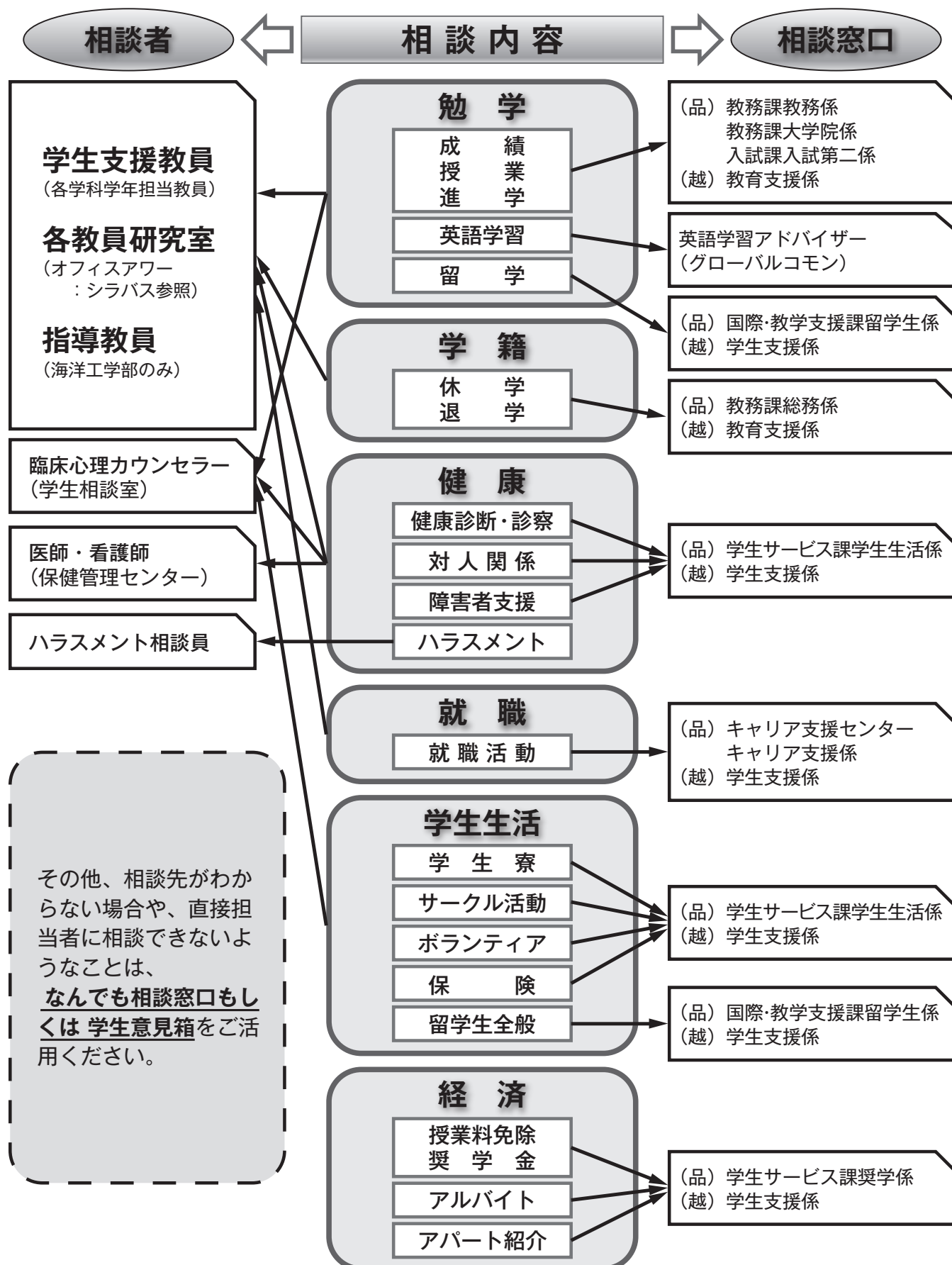
3年生

学部	学科	教員氏名		
海洋生命科学部	海洋生物資源学科	岩田繁英	宮本隆典	
	食品生産科学科	ラベベレス イヴァン アントニオ	田中誠也	
	海洋政策文化学科	大河内美香	今村圭介	
海洋工学部	海事システム工学科	今村圭介	石橋篤	松本洋平
	海洋電子機械工学科	桑田敬司	大島浩太	地下大輔
	流通情報工学科	遠藤伸明	坂井孝典	
海洋資源環境学部	海洋環境科学科	片野俊也	呉海云	
	海洋資源エネルギー学科	上野公彦	淵田茂司	

4年生

学部	学科	教員氏名		
海洋生命科学部	海洋生物資源学科	矢澤良輔	小祝敬一郎	
	食品生産科学科	渡邊学	耿婕婷	
	海洋政策文化学科	大野美砂	工藤貴史	
海洋工学部	海事システム工学科	金岡京子	増田光弘	福田厳
	海洋電子機械工学科	清水悦郎	木船弘康	盛田元彰
	流通情報工学科	森下稔	橋本英樹	
海洋資源環境学部	海洋環境科学科	鈴木直樹	今孝悦	
	海洋資源エネルギー学科	稲津大祐	三島由夏	

本学の学生相談体制について



お知らせ

海外派遣プログラムに参加してみませんか？

東京海洋大学では、海洋を巡る国境を越えた地球規模の諸課題の解決に貢献できる、グローバル人材の育成に力を入れており、英語教育や海外派遣プログラムの充実に努めています。

学部1年生から大学院まで、2週間程度のサマープログラムから3か月から1年間の交換留学、また1年以上の長期派遣プログラム（大学院レベルの学位取得プログラム）など、目的や国・地域、期間等に応じた各種海外派遣プログラムを実施しています。

交換留学を考えている方から、留学は考えていないけれど海外に興味はある、まとまった時間が取れる機会に何かに挑戦してみたいといった方まで、みなさんの興味や関心に応じて参加が可能です。

各プログラムの概要は以下のとおりです。

○海外探検隊

毎年夏と春の約1か月間、東南アジア地域を中心に大学、研究機関や企業での英語によるインターンシップを実施するプログラムです。

○交換留学

毎年度、3か月から1年までの期間で世界各国の協定校との交換留学を実施しています。留学先の大学に在籍して現地の学生や各国の留学生と共に学ぶプログラムです。

○オケアヌスプラスSTP・IJP・DDP

本学では中韓及びASEANの6大学と国際協働プログラムを行っており、合同サマープログラム（STP）、単位取得プログラム（IJP）及び学位取得プログラム（DDP）を実施しています。

○OMETISプログラム

本プログラムでは、学部4年生から大学院生を対象に、デンマーク及びノルウェーの6大学と高度専門技術者養成プログラムを行っており、オンラインによる合同授業（ALC）、単位互換による留学（CTEX）、インターンシップ等を実施しています。

他にも海外探検隊（指導教員立案型）、JICA・大学連携「海外協力隊」や学部等で実施する独自の海外派遣プログラムがあります。

各プログラムの説明、対象学年、各種奨学金、応募スケジュールやプログラムに参加した先輩の体験談など、詳しい情報を大学ホームページ等に掲載しています。以下のQRコードからアクセスしてください。

東京海洋大学では、2024年度から4学期制、105分授業を実施し、学修環境に合わせて、ギャップタームや長期の夏季休業期間を利用することで、留学やインターンシップ等のプログラムに取り組みやすい環境となりました。

語学や研究はもちろん、多様な価値観の中に身を置くことで自身の世界を拡げることにもつながる海外派遣プログラムにみなさんもぜひ挑戦してみてください。

各プログラムの紹介、問い合わせ先はこちら



留学・海外派遣情報等は、以下のSNSでも発信しています。



@tumsat_global



Instagram
tumsat_global



国立科学博物館および国立美術館の利用について

本学は、「国立科学博物館 大学パートナーシップ」および「国立美術館キャンパスメンバーズ」に加入しております。

◆国立科学博物館 大学パートナーシップ利用可能施設

施設名	住 所
国立科学博物館(上野本館)	東京都台東区上野公園7-20
附属自然教育園	東京都港区白金台5-21-5
筑波実験植物園	茨城県つくば市天久保4-1-1

本学の学生証を提示することで、下記施設の常設展が無料で利用できるほか、特別展・企画展を割引料金で鑑賞できるなどの特典があるので、ぜひご利用ください。

◆国立美術館 キャンパスメンバーズ利用可能施設

施設名	住 所
東京国立近代美術館	東京都千代田区北の丸公園3-1
国立西洋美術館	東京都台東区上野公園7-7
国立新美術館	東京都港区六本木7-22-2
国立映画アーカイブ	東京都中央区京橋3-7-6
国立工芸館 (東京国立近代美術館工芸館)	石川県金沢市出羽町3-2

東京海洋大学 公式X (@tumsat_official)



緊急時連絡システムについて (さくら連絡網)

1. 緊急時連絡システムとは

本学のすべての学生・教職員と緊急時に連絡をとるためのメール・LINE・アプリによる配信システムです。

- ①台風・地震等の自然災害やインフルエンザ流行等による**緊急の休講等**を連絡します。
- ②**災害時の安否確認**や健康状態の収集手段としても使用します。
- ③その他、掲示板で告知するお知らせの中で緊急性があり重要と判断するお知らせ等の連絡をします。

2. 登録方法

携帯電話・スマートフォン等の携帯端末や自宅PC等の**複数のメールアドレス（4件まで）、LINE、アプリ**が登録できます。**必ず登録してください。**

3. 登録手順

- (1) さくら連絡網登録用QRコード又はURLにアクセスします。

後述の「**4.メール受信時の注意①**」で説明しているログインIDとパスワードが届いたらアクセスしてください。

QRコードはこちら →



URLはこちら → <http://390390.jp>

URLを直接入力した場合は、
認証コードの入力を求められます。
認証コード：204 441 4

- (2) 連絡を受け取りたい方法を**【メール】**、**【LINE】**、**【アプリ】**から選びます。（※3種類とも登録できます。）

(3) **【メール】を選んだ場合**

- ①登録用メール送信画面に切り替わるので、そのまま送信します。（※メール本文は変更しないで下さい。）
- ②さくら連絡網から、メールで登録用のURLが届きます。
- ③URLにアクセスして、登録画面からログインIDとパスワードを入力します。
※登録した携帯電話等のアドレスにメールが届かない場合は、迷惑メールフィルタを確認するとともに、ドメイン指定受信に「school-i.net」を追加登録して下さい。

【LINE】を選んだ場合

- ①LINEの友だち追加ボタンから登録（追加）します。（トークから登録開始）
- ②認証コード：204 441 4 を入力します。
- ③ログインIDとパスワードを入力します。

【アプリ】を選んだ場合

- ①さくら連絡網のアプリをインストールします。
- ②アプリを起動して、認証コード：204 441 4 を入力します。
- ③ログインIDとパスワードを入力します。

- (4) メニュー画面（以下、マイページといいます）が表示されたら登録完了です。

4.メール受信時の注意

- ①**ログインIDとパスワードは、大学からメールでお知らせします。（入学後1か月以内に、各自の海洋大アドレス及び入学手続き時に登録したメールアドレスへ送信します。）**
- ②緊急時連絡システムからアンケート形式で安否確認を行う場合があります。メールを受信したら、必ず開封し、内容を確認した後、指示に従って回答して下さい。
- ③マイページ（<https://390390.jp/parent/menu>）をブックマーク（スマートフォンの場合はホーム画面に追加）しておくと、後日メールアドレスの変更等を行う際に便利です。また、簡単ログイン設定をしておくと、次回からワンクリックでマイページにアクセスできます。
- ④配信先の変更を希望する場合やメールアドレスを変更した場合は、マイページのメニュー「連絡先を追加」から新し

い連絡先を追加し、「登録情報確認」から古い連絡先を削除して下さい。

- ⑤パスワードを紛失した場合は、本ご案内の一番下にある問合せ先（総務部総務課）へご連絡下さい。
- ⑥緊急時連絡システムは、大学からの送信専用アドレスです。上記のアンケート形式での回答以外は、大学側では内容の確認ができませんのでご注意ください。

5.個人情報の取り扱いに関して

緊急時連絡システムにご登録いただいたメールアドレス等、個人情報に関しては、「個人情報保護に関する法律」並びに「国立大学法人東京海洋大学個人情報保護規則」に基づき適切に取り扱います。また、上記の目的に限り使用し、他の目的で使用することはありません。

EMERGENCY CONTACT SYSTEM

“さくら連絡網 (SAKURA RENRAKUMOU)”

What is the Emergency Contact System?

The purpose of this system is to contact students, professors and university staff members by email in the following cases:

1. to inform them when classes are suddenly canceled due to a natural disaster (typhoon, earthquake), a flu epidemic or other reasons
2. to gather information about the safety and health of university members after a disaster
3. to disseminate urgent and important information displayed on the university's notice boards

How to register

Please register for multiple email addresses (up to Four) or LINE or other apps with mobile terminals such as a mobile phone, a smart phone, and a home PC. Please be sure to register for them.

Registration process

1. Access the QR code or URL for Sakura Renrakumou Registration.

***Please access it after receiving the notification email of your ID and Passcode from the university.**

QR code



URL

<http://390390.jp>

* If you enter the URL directory, “認証コード (authentication code)” will be required.

authentication code: 204 441 4

2. Choose how you would like to receive information from the university: “Email,” “LINE” or “app.”

* You can also register all three.

3. **If you choose “Email,”**

- ① The page will move to the sending registration email screen, please send the email.

*Please do not change the body of the email.

- ② Receive the registration email from Sakura Renrakumou.
- ③ Access the URL and enter your ID and Passcode on the registration screen.

*If you fail to receive the email from Sakura Renrakumou, please check your mobile phone's spam filter settings and add the domain name "school-i.net" to your list of authorized contacts.

If you choose “LINE,”

- ① Register (Add) from LINE's Add Friends button. (i.e., start from the “Talk” page).
- ② Enter Authentication code: 204 441 4.
- ③ Enter your ID and Passcode.

If you choose “app,”

- ① Install the Sakura Renrakumou app.
- ② Enter Authentication code: 204 441 4.
- ③ Enter your ID and Passcode.

4. If the menu screen is displayed, your registration will be completed successfully.

Notes

- Your ID and Passcode will be notified by email from the university. Within one month of your enrollment, they will be sent by email to both your university email address and the email address registered at the time of your enrollment procedure.
- It may be used to gather information on your safety through questionnaires. On receiving it, please ensure the message and reply your answer following its instructions.
- We recommend you will add the system login page (<https://390390.jp/parent/login>) to your bookmarks to access your email and passcode settings easily.
- To change your delivery settings, register for a new your email address.
- If you forget your passcode, please contact the responsible section(contact details below).
- This system is a send-only address. The university cannot receive emails sent to this address.

Privacy policy

Your email addresses and other personal information registered on the system are strictly protected by the Act on the Protection of Personal Information and the university's privacy policy. This system is used exclusively for the purposes stated above.

Contact

General Affairs Department, General Affairs Division

Email: so-soumu@o.kaiyodai.ac.jp Tel: 03-5463-0354

重要!

ネットワーク障害防止のための注意事項

研究室等における不適切なネットワーク機器の利用によって、キャンパス全体で大規模なネットワーク障害が起こりえます。下記の点に、ご注意ください。

ハブ等に、ループ状にケーブルを接続しない

ケーブルの両端をネットワーク機器に接続すると、出口のない通信パケットがネットワーク内で増大し、フロアや建屋全体が通信不能になるなど、重大な障害が引き起こされます。利用しないケーブルは機器から取り外してください。



古いハブ、壊れたLANケーブルなどを使用しない

古くなったプラスチック製のハブ(HUB, Switch)は、突然熱暴走を起こし、フロア全体の通信障害の原因となることがあります。壊れた配線やコネクタの損傷も通信トラブルの原因になる場合があります。導入後は耐用年数やサポート期限を確認し、破損状況に応じて買い替えましょう。(ハブは金属製の、1Gbps 以上対応のものをお使いください) また、古いOA タップの利用、定格電流を超えた使用、タコ足配線は火災の原因になりますので、ご注意ください。



研究室内のルータの設定・接続を正しく行う

研究室等で個別に設定したブロードバンドルータ、無線LAN ルータのDHCP 機能の誤設定により、フロアや建屋全体での通信障害につながる場合があります。ネットワーク設定、ケーブルの接続が正しく行われているかを点検してください。(特にWAN とLAN の間違いに注意してください)

PC 等を廃棄する際はデータの消去をしてください

廃棄するPC 等からの情報流出を防ぐため、ハードディスク・SSD 等の記録媒体は破壊装置、消去装置を使って、データ消去をしてください。消去できない場合は、窓口にお問い合わせください。

注意 PCは最新の状態にアップデートしてください

近年、OSの脆弱性を狙ったウイルス攻撃等による情報漏えい被害が世界的に報告されており、古いOSを使うことはサイバー攻撃を受けるリスクを高めます。利用している端末OSやウイルス対策ソフトを常に最新の状態に保つようにしてください。本学ではウイルス対策ソフト (Trend Micro Apex One) の提供も行っております。詳しくは、全学ICTサポートのページをご確認ください。

<https://www.ipc.kaiyodai.ac.jp/ictsupport/antivirus.html> (※学内限定ページ)

また、Windows XP, Vista, 7, 8, 8.1, MacOS X及びmacOSにおける古いバージョンは、既にメーカーサポートが終了しています。これらのOSをお使いの場合は速やかに最新のOSに更新してください。また、Windows 10も2025年10月14日にサポートが終了します。こちらも余裕を持ってアップデートをおこない、Windows 11及び最新のmacOSをご利用ください。

情報システムに関する全学問合せ窓口

メール ict-support@o.kaiyodai.ac.jp 内線 0446

附属図書館 (品川) 1階事務室内 (担当: 全学 ICT サポート)

Notice!

Precautions to prevent network failures

Inappropriate use of network equipment in laboratories can cause large-scale network failures across the campus. Please take note of the following.

Do not connect the cable in a loop.

If both ends of the cable are connected to network devices, communication packets with no outlet will increase within the network, causing serious problems such as communication failure on an entire floor or building. Please remove unused cables from the devices.



Do not use old hubs or broken LAN cables.

Old plastic hub (HUB, Switch) may cause communication failures on the entire floor due to thermal runaway. Damage to the wiring or connectors can also cause communication problems. After installation, check the service life and support period, and replace them according to the damage. (We recommend a metal hub that support 1Gbps or more.)

Also, please be aware that using old OA power strips, using devices that exceed the rated current, and using multiple power strips can cause fires.



Set up and connect the router in the office correctly.

Incorrect settings of the DHCP function of the broadband router or wireless LAN router set up in the laboratory may cause communication problems throughout the floor or building. Please check that the network settings and cable connections are correct. (Pay particular attention to the correct use of WAN and LAN.)

When disposing of a computer, be sure to erase all data.

To prevent information leakage from discarded PCs, etc., please use a destruction or erasure device to delete data from recording media such as hard disks and SSDs. If you are unable to delete the data, please contact the ICT Support.

Caution!

Please update your PC to the latest version.

In recent years, there have been reports of information leaks caused by virus targeting OS vulnerabilities worldwide, and using an old OS increases the risk of cyberattacks. Please keep your device OS and antivirus software up to date. Our university also provides antivirus software (Trend Micro Apex One). For details, please see the ICT Support page.

<https://www.ipc.kaiyodai.ac.jp/ictsupport/antivirus.html> (*Campus-only page)

In addition, manufacturer support for Windows XP, Vista, 7, 8, 8.1, MacOS X and older versions of macOS has already ended. If you are using these OSes, please update to the latest OS as soon as possible. Support for Windows 10 will also end on October 14, 2025.

Please update them in advance and use Windows 11 or the latest macOS.

Information System Inquiry Center (TUMSAT ICT Support)

Email ict-support@o.kaiyodai.ac.jp Extension 0446

TUMSAT Library (Shinagawa) Office, first floor

東京海洋大学校友会のご案内

Q1.「東京海洋大学校友会」とは何ですか？

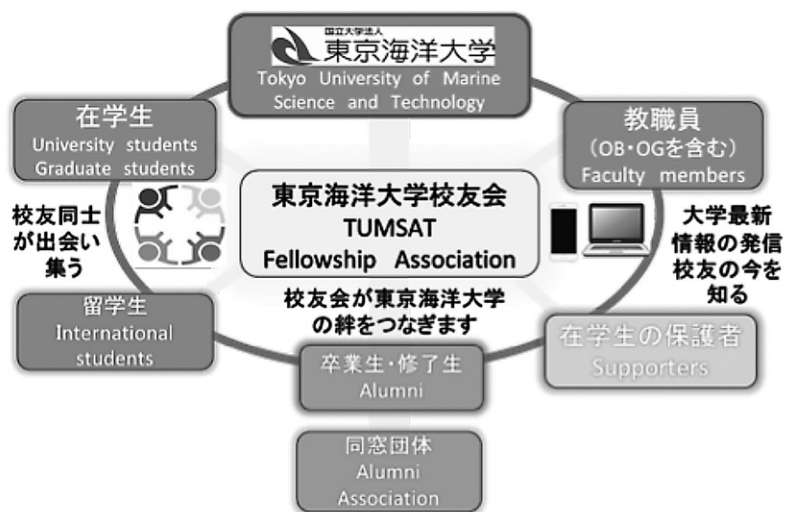
東京海洋大学は、2017年4月の「海洋資源環境学部」設立を機に国内における唯一の海洋系総合大学として体制を強固にしました。社会全体に強くその存在をアピールしていくため、2018年4月、全学的に「校友」同士の交流を活発化させ、本学の発展に寄与することを目的として、「東京海洋大学校友会」を発足しました。

Q2.「校友」とは誰ですか？

東京海洋大学および東京水産大学、東京商船大学等前身校の卒業生、在学学生、在学学生・卒業生の保護者、教職員の皆さまです。校友会では、「校友」限定イベント等の企画、「校友会ホームページ」の運営、「校友会メールマガジン」の配信等を行っています。

Q3.「校友会ホームページ」とは何ですか？アカウントはいつ貰えますか？

SNS機能、校友会メルマガ、公認課外活動団体ポータルサイトなどの機能を備えた「校友」限定ホームページです。「校友」の皆さまには個別アカウントを配布しております。(登録及び会費は無料です。)



海洋大の「今」が分かるコンテンツや情報を発信していきます。実際にアクセスしてみてください。



(校友会ホームページ) QRコード

【アカウント取得方法】

- 新入生の皆様：ご入学後、大学から付与されるメールアドレス（～@edu.kaiyodai.ac.jp）宛に校友会ホームページのID・パスワードを配布しています。一度、アクセスしてみてください。
- 保護者の方・卒業生の方：校友会ホームページの「新規登録」ボタンから申請をお願いいたします。校友会事務局で内容を確認後、ID・パスワードを送付いたしますので、分かる箇所は可能な限りご入力をお願いいたします。（在籍確認の関係上、申請いただいた後、少々お時間をいただいての対応となることがあります。）

また、本学卒業生を支援する同窓組織として「楽水会」「海洋会」があります。本学卒業生との強固なネットワークを築いておりますので、ぜひご加入ください。
楽水会：<http://rakusui.or.jp/>
海洋会：<http://www.kaiyo-kai.com/>

校友会に関する問合せ先：

東京海洋大学校友会事務局
電話番号：03-5463-4014
メールアドレス：koyukai@o.kaiyodai.ac.jp

掲 示 版

SNS、ブログ等の利用に関する注意事項

FacebookやXに代表されるSNS（ソーシャルネットワークサービス）、あるいはブログなどを利用していると思いますが、インターネット上に書き込んだ内容は全世界に公開されることとなります。

転載・拡散された場合等には、長期間ネット上に残り、何らかのきっかけで問題となることがあります。SNSなどインターネットへの書き込み、写真や映像の掲載・投稿には十分注意し、個人情報は書き込まないようにしてください。

何か困ったことがあれば、周りの人に相談するようにして下さい。SNSの公式サイトヘルプや問合せ窓口なども参考にしてください。

闇バイトに注意

SNSに投稿されたアルバイト情報の中には、犯罪の手伝いをさせられるなど、危険なものも潜んでいます。怪しげな情報にだまされないよう注意してください。「#裏バイト」「#高額バイト」等のハッシュタグがいっぱい並ぶ投稿は、誰がどう見ても怪しく、雇用主や仕事内容の記載がなければ無視し、関心を持つのは危険です。好条件をエサに接触を待つ、勧誘目的で友達申請をする等、悪意の仕掛けはさまざまです。友人・知人が発信した情報でも、また聞きや再投稿の可能性があります。安易な連絡は絶対にやめてください。詐欺の受け子等は使い捨て、見つかって逮捕されることや、犯人グループとトラブルになるケースもあります。手っ取り早く稼ぎたい、スリルを味わいたいという気持ちで罪を犯すことのないよう十分注意してください。

薬物の乱用について

薬物の乱用は、本人の精神と身体に危害を及ぼします。また、友人や家族関係の崩壊にもつながるなど、本人だけでなく、社会全体に計り知れない影響をもたらします。このため、薬物の所持や使用は法律で禁止されており、違反者は厳罰に処せられます。

薬物に対して安易な気持ちや一時の興味で接することのないよう十分注意してください。

盗難に注意

下記の事項を守り、自己管理を徹底してください。

- ・貴重品は、できる限り大学には持参しないでください。
- ・やむを得ず所持する場合は、各自でロッカーに鍵をかけて管理してください。
- ・鍵は安易に解錠出来ないもの（ダイヤル式など）を選んでください。

悪質商法等に注意

消費者契約等に関するトラブルが増加しています。うまい話には要注意です。少しでも疑問を感じたら契約しないでください。また、身に覚えのない請求などは支払わないでください。

訪問販売や電話勧誘販売など、特定の取引の場合に、一定期間内ならば理由を問わず解約できるクーリング・オフ制度があります。もしも被害に遭ってしまったときは消費生活センターに相談してください。

カルト団体等の偽装勧誘に注意

キャンパス内において、自らが宗教団体であることを名乗ることなく、サークル活動や自主ゼミと称し、特定の反社会的なカルト団体に引き込まうとする「偽装勧誘」の事例があります。

声を掛けられておかしいと感じた場合はキッパリと断り、安易に電話番号、メールアドレス等を交換しないでください。また、不審な団体と感じたとき、あるいは勧誘活動を受けた場合は、学生生活係、学生支援係まで知らせてください。

飲酒についての注意事項

(1) 20歳未満の飲酒は法律で禁止されています。

アルコールには麻酔作用があるので、20歳未満が飲み方や適量もわからず無理に飲むと、急性アルコール中毒を起こしやすいといわれています。もし、誰かに勧められても、きちんと断ることが大切です。

(2) 飲酒の強要は絶対にしないこと。

20歳未満やお酒に弱い方にお酒を強要することは絶対にしないでください。

(3) 飲酒運転は厳禁です。

「道路交通安全法」では飲酒運転のほか、飲酒者への車両の提供、運転者への酒類の提供、飲酒運転の車への同乗についても禁止されており、厳しい罰則が課せられます。

